社会開発協力部報告書

No. 2

インドネシア
ラジオ・テレビ放送訓練センター
評価調査団報告書

平成2年7月

国際協力事業団

社協二
JR
91－012

インドネシアラジオ・テレビ放送訓練センター評価調査団報告書　平成2年7月
LIBRARY

インドネシア

ラジオ・テレビ放送訓練センター

評価調査団報告書

JICA LIBRARY
1106358[3]
25208

平成２年７月

国際協力事業団

国際協力事業団
25208

序　　文

インドネシア共和国は民族及び文化の多様性を有する島しょ国家であり，国家の統一，近代化の促進等の観点から，ラジオ・テレビを中心としたマス・メディアの果たす役割は極めて重大である。

このため同国政府は，国家開発計画の重点施策としてラジオ・テレビ放送網の拡充を図っており，それに必要なスタッフの訓練・養成を目的としてマルチ・メディア・トレーニング・センター（MMTC）の設立を計画し，昭和54年９月，我が国に対し協力を要請してきた。

これを受けて我が国は，無償資金協力により施設，訓練機材を供与するとともに，ラジオ・テレビ放送要員の訓練に関し，昭和58年10月21日の討議議事録（R/D）署名以降，番組編成，番組制作，報道，制作技術，運行技術及び送信技術の各分野につきプロジェクト協力を行ってきた。

当初計画では，昭和63年10月20日に協力期間を終了することとなっていたが，同年４月のエバリュエーション調査の結果に基づき，協力期間を２年間延長した。

その後，平成元年３月に計画打合わせ調査団，平成２年２月に巡回指導調査団を派遣した。

今回当事業団は，延長２カ年の協力期間が，平成２年10月に終了するに先立ち，本２年間の協力に対する評価調査を行うことを目的として，平成２年７月５日から７月14日まで，郵政省通信政策局国際協力課第一国際協力係長 矢崎敏幸氏を団長とする評価調査団を派遣した。

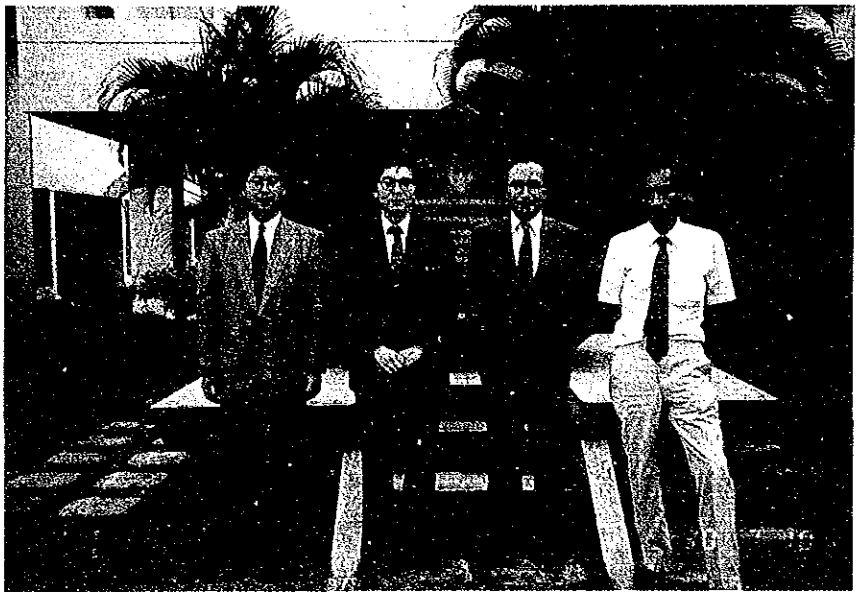
その結果，更に２年間協力期間を延長することを決定したが，本報告書は，同調査団の調査，協議結果をとりまとめたものである。

終わりに，今回の調査の任に当たられた団員各位並びにご協力いただいた外務省，郵政省，NHK及び在インドネシア日本大使館その他関係機関の方々に対し，深甚の謝意を表する次第である。

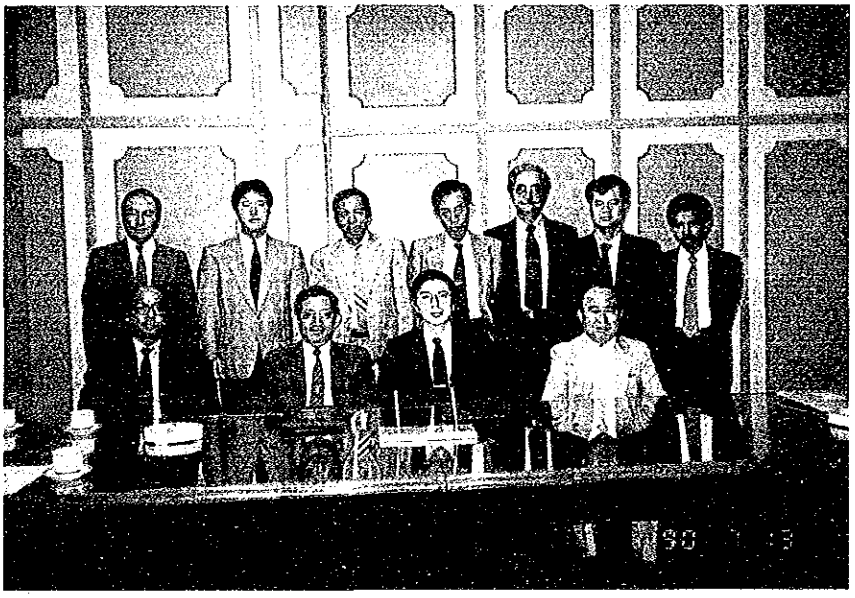
平成２年７月

国際協力事業団

理事　玉光弘明



左から、斉藤団員、矢崎団長、高瀬団員、松田団員（於 MMTC）



情報省に於て、ミニッツ署名式
前列左から２人目MANGAWEANG次官、右端下地リーダー
後列右から２人目池城調整員、左から３人目HOETOJO MMTC所長

目　　次

序文

写真

1．評価調査団の派遣……1

1－1　調査団派遣の経緯……1

1－2　調査団派遣の目的……2

1－3　調査団の構成……3

1－4　調査日程……3

1－5　主要面談者……3

1－6　延長期間終了に当っての対処方針……4

2．調査結果概要……7

2－1　プロジェクトの進捗状況……7

2－2　プロジェクトの再延長……7

2－3　再延長期間中における我が方の協力体制……8

2－4　再延長期間中における「イ」側の取るべき措置……8

2－5　再延長期間中におけるスケジュール……9

3．ミニッツ……13

4．評価……19

4－1　現行の延長 R/D の目的……19

4－2　訓練コース実施状況……19

4－3　カウンターパートの配置状況と適正度……20

4－4　技術移転達成状況……29

4－5　カリキュラム整備状況……43

4－6　教科書，教材の整備状況……63

4－7　無償及び技術機材の活用・維持管理状況……72

4－8　プロジェクトの実施体制……95

4－9　日本側投入実績……107

4－10　目標達成状況と現在の問題点……115

5．技術協力期間の再延長 ……119
5－1　再延長期間と目的 ……119
5－2　協力の実施スケジュール ……119
5－3　日本側投入計画 ……120
5－4　「イ」側の取るべき措置……120

6．調査団長所感 ……123

1.　評価調査団の派遣

1－1　調査団派遣の経緯

今までのプロジェクトの経緯は，概ね次のとおりである。

（1）本プロジェクトは，ジョグジャカルタにマルティメディア訓練センター構想の中核たるラジオ・テレビ放送訓練センターを開設して，放送業務に携わる者に幅広い基礎的知識及び技能を付与し，もって情報省職員として望ましい職務遂行能力を涵養することを目的とし，S58.10.21～63.10.20までの５カ年間にわたる協力を開始した。

（2）無償（約18億円）による施設・機材を使用して，60年７月に開講したが，同時期に突如，大統領令によりディプロマ制の導入が決定された。ディプロマ制は，ＤＩ～ＤIIIの３段階に区分けされているが，とりあえず，当初予定していたベーシックコースと内容等がほぼ同一のＤＩコースを実施することとした。

（3）61.４月に所長以下スタッフが発令された。

（4）（2）に伴い，マスタープランも，ＤＩコースに係る技術指導と将来のＤII，ＤIIIコース実施のための準備作業に係るアドバイスに変更することとし，61年９月の計画打合せ調査団のミニッツにてＲ／Ｄを修正（現状追認）。

（5）63年４月に評価調査実施。その結果，まずＤＩの実施状況については，ほぼＣ／Ｐの手により実施されているとしつつも次の問題が指摘された。

ア．ＤＩ関連

（ア）第１回目コース（半年分のみ実施）の残り半分の実施の目途が立っていない。

（イ）５コースのうち，番組編成コースが予算不足のため未実施のまま。

（ウ）ＤＩの基本部分の終了に過ぎず，イ側にハンドオーバーするには分野にもよるが，なお１～２年の継続協力が必要。本プロジェクトが種々の事情により，実質的には協力期間の後半からスタートしたことを勘案すれば止むを得ない。

イ．ＤII，ＤIIIコースの準備

（ア）基本構想が整いつつある段階で，具体的な科目の詳細，機材の整備等には至っていない。コース開始までには引き続き２年程度の協力が必要。

以上の理由により，２年間の延長が決定された（63.10.21～Ｈ２.10.20）。

（6）平成元年３月に，計画打合せ調査団を派遣し，延長後半年間の進捗状況を把握。主な内容は次のとおり。

ア．63年度はＤＩ４コースを実施した。

イ．平成元年には，ＤＩ全５コースの実施と，第１回４コースの２期分の訓練（６カ月）の実施を予定している。

ウ．また，ＤIIも全８コースのうち３コースの実施を予定している。

エ．ＤＩの実施に関する部分については，技術移転は順調，延長協力期間終了までには技術移転は完了の見込み。

オ．ＤII，ＤIIIコース実施のための準備作業については，日本の協力はこれから本格化するところであり，延長期間終了後も何らかの形で協力継続が必要，と判断される。

（７）「イ」側からの追加無償の要請との関連があり，元年11月に，今後の方針を各省会議にて次のとおり内定した。

ア．現行Ｒ／Ｄを更に２年間延長（90.10～92.10）し，61年９月の修正Ｒ／Ｄの目標である「ＤII，ＤIIIコース実施の準備」に全力を傾ける。

イ．現在の「イ」側のコース実施計画が順調に行くとすれば，92年10月には，追加無償の機材を用い，ＤIIの全コース実施とＤIII６コースの実施を見届けることができる。

ウ．「イ」側に対しては評価調査団がミニッツにて，再延長を正式に表明する。

（８）平成２年２月に巡回指導調査団を派遣し，元年３月の計画打合せ調査団派遣後約１年間の進捗状況を把握した。主な内容は次のとおり。

ア．ＤＩに対する協力は，５コース共ほぼ完了の段階に至っており，Ｒ／Ｄ終了時の２年10月までには完了の見込み。

イ．平成元年３月の調査時点では，ＤII，ＤIII準備に対する協力も２年10月までに終了できるとの見通しであったが，更なる協力が必要と判断される。

（９）以上を受け，今次評価調査団は，延長協力期間における目標達成度の評価と今後の方針を決定するため，以下の目的で派遣された。

１－２　評価調査団派遣の目的

（１）本プロジェクトは，当初設定された５カ年間の協力期間終了の後，現在２年間の延長期間の終了間近かの時期にあるところ，２年間の協力期間延長が決定されたときの目標が，定められた期間内に達成できるか否かにつき調査する。

（２）（１)の結果に基づき，平成元年11月に内定した「更なる２年間の延長」という方針を「イ」側との間で正式に決定する。

（3）「更なる2年間の延長」期間における，協力目標，協力内容及び協力スケジュールを設定し，プロジェクト完了へ向けての道筋を立てる。

1－3　調査団の構成

（1）　団長　矢崎敏幸（総括）

郵政省通信政策局 国際協力課 第一国際協力係長

（2）　団員　高瀬賢一（番組研修計画）

NHK 会長室〔企画開発〕国際渉外副部長

（3）　団員　松田泰志（放送技術研修計画）

NHK 技術局施設業務部チーフ・エンジニア

（4）　団員　斉藤直樹（計画評価）

JICA　社会開発協力部　社会開発協力二課

1－4　調査日時

月日	曜日	行　程	内　容
7/ 5	木	東京　　→ジャカルタ	移動（GA873）
6	金	ジャカルタ	情報省次官，テレビ、フィルム総局長等表敬 JICA 事務所，大使館訪問
7	土	ジャカルタ→ジョクジャカルタ	移動（GA436）専門家と協議
8	日	ジョクジャカルタ	団内打合せ
9	月	〃	MMTC との協議。施設，機材の視察
10	火	〃	MMTC との協議
11	水	ジャカルタ	移動（GA437）
12	木	〃	団内打合せ
13	金	〃	ミニッツ署名，JICA，大使館に報告
14	(土)	ジャカルタ→東京	移動（GA872）

1－5　主要面談者

（1）　インドネシア側

情報省次官	EMIR H.MANGAWEANG
〃　計画局長	ARIFIN
〃　テレビ・フィルム総局長	ALEX LEO ZULKARNAEN

〃　開発局長	DEWABRATA
MMTC　所長	HOETOJO HOERIP
〃　技術部長	KOSASIH
〃　総務部長	TOGAR LUMBAN RADJA
〃　教務部長	B.A.SISWANTOIXO

（2）　日本側

大使館二等書記官	斉藤郁哉
JICA　事務所長	北野康夫
〃　事務所次長	田口　徹
〃　事務所所員	米田一弘
プロジェクトリーダー	下地昇
専門家	上野重喜
専門家	時松佑見
専門家	小林修
調整員	池城直

1－6　延長期間終了に当っての調査団の対処方針

今次評価調査を実施するにあたり，各省会議を経て決定された調査団の対処方針は以上に示すとおりであった。

ア．昨年11月に内定した方針及び本年２月に派遣した巡回指導調査のミニッツを踏まえ，本プロジェクトを更に２年間延長（平成２年10月21日～平成４年10月20日まで）することとする。

イ．第１回目の延長の主な理由は，「ＤⅡ，ＤⅢコース実施のための，準備作業」を行うことにあった。しかしながらその進捗は，本格的な協力段階の途次であり，従って今回の更なる２年間の延長期間中における目標も前回同様「ＤⅡ，ＤⅢコース実施のための準備作業の完遂」とする。

ウ．本プロジェクトは立上り時期にＲ／Ｄの内容がイ側に一方的に変更されたり，イ側スタッフの発令が遅れる等の事情はあったものの，目標達成のために一度延長を行ったものを，再度延長することは異例のことであり，いわば背水の陣を敷くことを意味する。よって，今次調査においては，更なる２年間の間にプロジェクト完了に向けての，技協実施内容と実施スケジュールを「イ」側との間で確立する必要がある。

エ．当初２年間の延長に至ったもう一つの理由として，「ＤＩコース実施に係る技術指導の

完了を目指す」ことがあったが，右についてはの協力は，本年10月をもって完了する予定であるので，本分野に対する技術協力は終了する旨，明確に謳う。

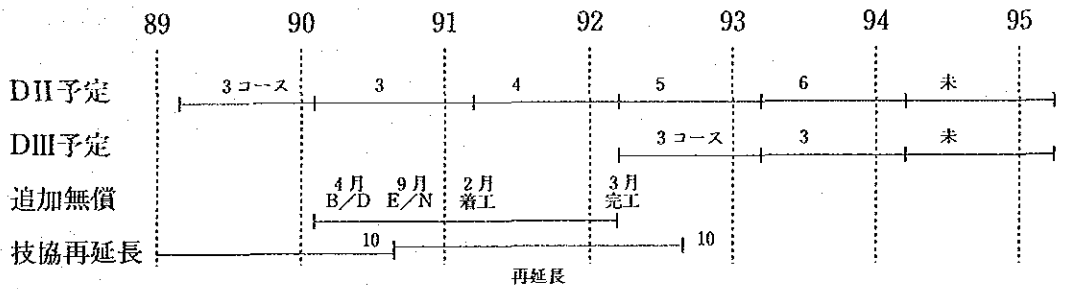
（今後もＤＩのカリキュラムの改正も常に有り得るし，また，ある技術のうち，どこまでがＤＩになるのか特定できる道理も無いが，昨年度ＤＩは５コース全て実施され，又講義もほとんどＣ／Ｐにより実施されていることからすれば，ＤＩに対する協力は終了と判断すべきである。今後ＤＩに対して行う協力は，ＤII，ＤIII準備に対する協力を補完するものと観念すればよい。）

オ．「イ」側のコース実施計画を充分勘案の上，協力内容を策定する。

○コース実施計画の変化

	89年度	90	91	92	93	94	
元年３月の調査時－DII	３コース (36)	４コース (48)	６コース (72)	８コース (96)	８コース (96)	８コース (96)	(全８コース)
〃 －DIII	—	—	—	６コース (72)	５コース (60)	11コース (13)	(全11コース)
２年２月の調査時－DII	３コース (36)	３コース (36)	３コース (36)	３コース (36)	４コース (48)	未定	(全８)
〃 －DIII	—	—	—	３コース (24)	３コース (24)	未定	(全11)
2年4月の無償B/D調査時 －DII	３コース (36)	３コース (36)	４コース (48)	５コース (60)	６コース (72)	未定	(全８)
〃 －DIII	—	—	—	３コース (24)	３コース (24)	未定	(全11)

カ．追加無償との兼ね合いを充分勘案の上，協力内容を策定する。



キ．技協再延長の決定にあたり，「イ」側に以下の内容を申し入れる。

（イ） ＤIIコース実施のための開発予算の獲得。追加無償，技協再延長という背景の中で，91年度にＤIIコースをできる限り増やす。

（ロ） ＤIIIコースについては，できれば91年度の実施（たとえ1コースでもよい）を目指す。右が叶わぬ場合でも，92年度には必ず実施すべく，予算の獲得を行うべし。（追加無償による施設完了，技協も92年10月で終了）

ク．今後のスケジュール（案）の確定

前回の巡回指導調査時に，更なる２年間を前提とした上で，「日」，「イ」双方により合意した計画案は次のとおりであり，今次，右を確定する。

90年２月～６月	インドネシアサイドによるＤＩ～ＤIIIのカリキュラムの完成	技術移転 ↓
90年７月	日・イ双方によるカリキュラムの決定	
90年８月～91年12月	日・イ双方による教材の作成	
92年１月～92年10月	上記教材の最終完成	

（※　本スケジュールは，次頁からの調査結果概要の中で触れられているとおり，調査の結果，若干変更されたので念のため）

2．調査結果概要

2－1　プロジェクトの進捗状況

本プロジェクトの技術協力期間が2年間延長された1988年8月時（ミニッツ締結）において，設定されたプロジェクトの目標は次の2点であった。

① ＤII，ＤIIIコース準備に関し協力すること

② ＤＩコース未実施部分に対する協力の完了

これに対し，「日」「イ」双方は，②については達成済との認識に至った。

（1）　各コースの実施状況

ア．ＤＩコース

全5コースが「イ」側C／Pの手により実施されている。なお，積み残しとなっていた初年度実施のＤＩコースの2学期分は，89／90会計年度に実施された。

イ．ＤIIコース

全8コースのうち，3コースが実施済。

ウ．ＤIIIコース

92／93「イ」会計年度から実施予定。

（2）　技術移転状況

ア．ＤＩコース

ＤＩコースの技術移転は順調に進み，現在は全て「イ」側によりコースが実施されている。

イ．ＤII，ＤIIIコース

ＤII，ＤIIIコースについては，ＤIIコースの一部が実施されている段階で，これからその実施が本格化するので，今後さらなる技術転移が必要である。

（3）　カリキュラム及び教材の作成状況

ＤＩコースのカリキュラム及び教材の作成は完了したが，ＤII，ＤIIIコースについては，現在日本人専門家の指導の下に，作成途次にあり，日本人専門家による更なる援助が必要である。

2－2　プロジェクトの再延長

（1）　再延長

上記2－1のとおり，本プロジェクトの延長目標のうち「①ＤII，ＤIIIコース準備に関

し協力すること」については未だその目標は達成されておらず，引き続き技術協力を継続する必要性があること，また「イ」側も本件プロジェクトの意義を高く評価しており，技協継続の要望が極めて強いことから，技協の期間を更に2年間（90.10.21～92.10.20まで）再延長することで，「日」「イ」双方が合意した。

（2） 再延長の目標

再延長期間における「日」側の技術協力の目標については，次のとおりとすることで「日」「イ」双方が合意した。この目標達成のため「日」「イ」双方がこれまで以上に協力していく必要がある。

目標：ＤII，ＤIIIコース準備に対する協力を完遂するため

①カリキュラムの改善に関する協力

②教材作成に関する協力

③「イ」側Ｃ／Ｐに対するある程度までの技術移転を行う。

他方「ＤＩ」に対する技術協力は現行協力期間(90.10.20まで)をもって終了する。

２－３ 再延長期間中における我が方の協力体制

再延長期間中における「日」側の協力体制は以下のとおりで合意された。

（1） ４名の長期専門家十調整員１名の派遣（現体制を維持)。

また，短期専門家を必要に応じて派遣。

（2） スペアパーツ等の機械供与。

（3） Ｃ／Ｐ若干名の日本への招へい。

２－４ 再延長期間中における「イ」側の取るべき措置

再延長期間中における「イ」側の取るべき措置については以下のとおりで合意された。今後，この合意どおりの措置が適切に取られるよう，見守っていく必要がある。

（1） ＤII，ＤIIIコースの実施のための必要予算の確保

（2） ＤII，ＤIIIコースの実施計画の遵守

（3） 必要なＣ／Ｐの配置

（4） 実施コース数の増加に伴う十分な教員の配置

（5） 機材及び施設の保守システムの強化

（6） 現行協力期間内における，合同委員会の開催

2－5　再延長期間におけるスケジュール

再延長期間中のスケジュールについては，特にカリキュラムの完成時期につき以下のとおり合意されたが，今後このスケジュールが遵守され，また，技術協力の目標が達成され，プロジェクトが成功裡に終了できるよう，双方の努力を引き続き望みたい（スケジュール表を次頁に示す）。

①カリキュラムの作成

現行協力期間中の90年９月末までに「日」「イ」双方の協力により，カリキュラム及びシラバスを作成し，その後90年10月～91年12月まで，詳細な詰めと調整を行い，92年１月に最終決定をすることとなった。（本年２月の調査時点では，７月までにカリキュラムを「日」「イ」双方で決定する予定であったが，今次，９月までとすることで合意した）

②ＤII，ＤIIIコース実施計画

90／91会計年度　ＤII３コース

91／92会計年度　ＤII４コース

92／93会計年度　ＤII５コース　ＤIII３コース

訓練コース実施計画（イ側作成）の変化

		89年度	90	91	92	93	94	
元年３月の調査時	DII	3	4	6	8	8	8	(全８)
	DIII	—	—	—	6	5	11	(全11)
２年２月の調査時	DII	3	3	3	3	4	未定	
	DIII	—	—	—	3	3	未	
２年４月及び２年７月の調査時	DII	3	3	4	5	6	6	
	DIII	—	—	—	3	3	4	

再延長期間における技術協力スケジュール

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION FOR THE RE-EXTENDED TERM

CALENDAR YEAR / ITEM	1990 (10/21)	1991	1992 (10/20)
1. Implementation Schedule for DII, DIII	DII. 3courses	DII. 4courses	DII. 5courses DIII. 3courses
2. Re-extended Term of Cooperation			
3. Dispatch of Japanese Experts			
(1) Long-term Experts			
(2) Short-term Experts		(Several experts may be dispatched, if the necessity arises)	
4. Provision of Equipment			
5. Counterparts Training in Japan		(Several counterparts per year)	
6. Service of Indonesian Staff			
(1) Head (Director)			
(2) Teaching staff for training courses			
(3) Staff for maintenance of equipment			
(4) Administrative personnel and others			
7. Contents of Cooperation	(* Sep.)		
(1) To assist in improving the curricula			
(2) To assist in producing teaching materials			
(3) To transfer technology			

*Establishment of MMTC proposed curricula and syllabi.

IMPLEMENTATION PLANNING OF D I,II,III

RADIO AND TELEVISION

MULTI MEDIA TRAINING CENTRE

(90年4月現在の訓練コース実施計画《イ側作成》)

Program Study	1990/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	96/97	97/97	98/99
DI									
1. Programmes Compilation planning	24	24	24	24	24	24	24	24	24
2. Program Lines Production	24	24	24	24	24	24	24	24	24
3. News and Current Affairs Reporting	24	24	24	24	24	24	24	24	24
4. Studio and Master Control Technique Operation	24	24	24	24	24	24	24	24	24
5. Transmission Operation	24	24	24	24	24	24	24	24	24
DII									
1. Programmes Broadcasting Planning	-	-	12	12	12	12	12	12	12
2. Program Package Production	12	12	12	12	12	12	12	12	12
3. Scipt/ Story Writings	12	-	-	12	12	12	12	12	12
4. Broadcasting Performance	-	-	-	-	-	-	12	12	12
5. Broadcast Journalism	-	12	12	12	12	12	12	12	12
6. Studio Production Technique	12	12	12	12	12	12	12	12	12
7. Technical Repair	-	-	-	-	-	12	12	12	12
8. Transmission Technique	-	12	12	12	12	12	12	12	12
DIII									
1. Broadcasting Management	-	-	-	-	-	8	8	8	8
2. Program News and Information Productions	-	-	-	-	8	-	8	8	8
3. Program Education and Religion Productions	-	-	-	8	-	8	-	8	8
4. Program Cultural and Entertainment Productions	-	-	8	-	8	-	8	-	8
5. Technical and Artistic Production Designs	-	-	-	-	-	-	-	-	8
6. Scenario and Storyboard Writings	-	-	8	8	8	8	-	8	8
7. Public Speech and Drama Castings	-	-	-	-	-	-	8	8	8
8. Apparatus Engineering	-	-	8	8	8	8	-	-	8
9. Open Studio and Mobile Production Engineering	-	-	-	-	-	-	-	8	8
10. Satellite and Terrestrial Transmission Engineering	-	-	-	-	-	8	8	-	8
11. Maintenance	-	-	-	-	-	-	-	8	8
Total of classrooms	8	9	13	14	15	17	18	20	24

Yogyakarta, April 1990

Director of Multi Media Training Centr

HOETOJO HOERIP

3．ミニッツ

THE MINUTES OF MEETING

BETWEEN THE JAPANESE EVALUATION TEAM

AND THE MINISTRY OF INFORMATION OF THE REPUBLIC OF INDONESIA

ON THE RADIO AND TELEVISION TRAINING CENTRE PROJECT

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and headed by Mr. TOSHIYUKI YAZAKI (Assistant Director, International Cooperation Division, Communication Policy Bureau, Ministry of Post and Telecommunications) visited the Republic of Indonesia from July 5 to July 13, 1990.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Team exchanged views in a series of discussions aimed at evaluating the Project and determining what will be necessary after the designated term expires.

As a result of the discussions and based on recognition that further technical cooperation will be necessary, both parties agreed to recommend to their respective governments that the term of technical cooperation will be re-extended for another two years, until October 20, 1992, and the documents attached hereto were drawn up.

Jakarta, July 13, 1990

TOSHIYUKI YAZAKI
Leader, Evaluation Team
Japan International
Cooperation Agency,
JAPAN

EMIR H. MANGAWEANG
Secretary General
Ministry of Information,
THE REPUBLIC OF INDONESIA

THE ATTACHED DOCUMENT

I. PROGRESS OF THE PROJECT

When the term of technical cooperation was extended for two years in August 8, 1988, there were two objectives.

(1) To assist and further advise the Indonesian counterparts on preparation for the D II and D III courses, such as provision of the curricula and the textbooks.

(2) To accomplish technical assistance in the remaining fields of the Diploma I course.

With the end of the extension term, both the Team and the Indonesian authorities concerned recognized that objective No (2) would be completely achieved. Objective No (1), however, is still in progress.

1. Course Implementation

(1) Diploma I (D I)

All five training courses have been conducted by the Indonesian counterparts.

(2) Diploma II (D II), Diploma III (D III)

Of the eight courses planned for D II, three trial training courses have been conducted. The D III courses are scheduled to commence in the Fiscal Year 1992/1993.

2. Technology Transfer

(1) D I
Good progress has been made and now all courses are managed by the Indonesian staff.

(2) D II, D III
Some progress has been made and is still on the way.

3. Completion of the curricula and teaching materials

(1) D I
They have been completed.

(2) D II, D III
They are now being prepared.

IV. MEASURES TO BE TAKEN BY THE INDONESIAN SIDE

1. To secure the required budget for smooth implementation of the Project, especially the budget necessary for conducting D II and D III courses.

2. To confirm the implementation schedule of D II and D III courses as described in the ANNEX.

3. To assign the required number of qualified Indonesian staff as counterparts for smooth implementation of the Project.

4. To allocate an appropriate number of teaching staff for handling the increasing number of courses.

5. To strengthen the maintenance system of the equipment and facilities.

6. To hold a Joint Committee Meeting before the end of the present technical cooperation period for effective Project implementation during the re-extended term.

V. TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

Tentative Schedule of Implementation for the re-extended term is shown in the ANNEX.

II. RE-EXTENSION OF TECHNICAL COOPERATION AND ITS OBJECTIVE

Based on the recognition mentioned in I. above, both parties agreed to re-extend the technical cooperation for another two years.

1. Term of Re-extension

The term of technical cooperation shall be re-extended for two years until October 20, 1992.

2. Objective of Re-extension

To accomplish technical cooperation for preparation of D II and D III courses, namely (1) to assist in improving the curricula, (2) to assist in producing teaching materials, (3) to transfer technology to the Indonesian counterparts to some degree.

Technical cooperation for D I will be completed by the end of the present cooperation period.

III. COOPERATION DURING THE RE-EXTENDED TERM

1. Dispatch of Japanese Experts

(1) Long-term Experts
a. Chief Advisor
b. Coordinator
c. Four (4) Experts covering the fields of :

Program Compilation, Program Production, News Reporting, Production Engineering, Post Production and Master Control Engineering, Transmission Engineering.

Notes : Chief Advisor will be appointed from among the long-term experts in concurrent positions.

(2) Short-term Experts
Short-term experts shall be dispatched as the necessity arises for smooth and effective implementation of the Project.

2, Provision of Equipment

Spare parts and consumptive materials will be provided as necessary.

3. Counterparts Training in Japan

Several counterpart personnel per year will be sent to Japan for technical training in the specific fields of the Project.

ANNEX

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION FOR THE RE-EXTENDED TERM

CALENDAR YEAR / ITEM	1990 10/21	1991	1992 10/20
1. Implementation Schedule for DII, DIII	DII. 3courses	DII. 4courses	DII. 5courses DIII. 3courses
2. Re-extended Term of Cooperation			
Dispatch of Japanese Experts			
(1) Long-term Experts			
(2) Short-term Experts		(Several experts may be dispatched, if the necessity arises)	
4. Provision of Equipment			
5. Counterparts Training in Japan		(Several counterparts per year)	
6. Service of Indonesian Staff			
(1) Head (Director)			
(2) Teaching staff for training courses			
(3) Staff for maintenance of equipment			
(4) Administrative personnel and others			
7. Contents of Cooperation	(* Sep.)		
(1) To assist in improving the curricula			
(2) To assist in producing teaching materials			
(3) To transfer technology			

* Establishment of MMTC proposed curricula and syllabi.

4．評　価

4－1　現行の延長R／Dの目的

前述のとおり，当初5カ年間の技術協力期間（1983.10.21～88.10.20）が終了するに先立ち，88年4月に実施された評価調査において，2カ年間（88.10.21～90.10.20）の協力延長が決定された訳だが，その時設定された延長期間におけるプロジェクトの目的は次のとおりであった。

①DII，DIIIコース準備に関し協力すること

②DIコース未実施分に対する協力の完了

上記目標に対し，今次評価調査団が行った評価は，次のとおりであった。尚，本来本評価は，延長2カ年間についての評価を中心に行い，もって当初から7カ年の評価とするとの位置付けのもとに行われた訳だが，この機会に当初からの実績も併わせて表示した方が，プロジェクトの経緯を振り返るには適当との判断から，できる限り今までの実績も載せることとした。

4－2　訓練コースの実施状況

（1）　DIコース

DIコースは「番組編成企画」，「番組制作」，「ニュース報道」，「スタジオ及び主調整の運用技術」及び「送信技術」の5コースであるが，89年度に初めて全5コースが実施されると共に，85年度への後期半年分（4コース）も実施された。90年度も全5コースが実施中であり，DIコースの実施状況は軌道に乗ったといえる。

各年度の実施状況は以下のとおりであるが，詳しくは表－1及び表－2に示すとおり。

・DIコース（全5コース）

85年度－4コース（但し半年のみ）

86年度－2コース

87年度－3コース

88年度－4コース

89年度－5コース＋85年の残り半年分4コース

90年度－5コース

（2）　DIIコース

DIIコースは，「放送番組企画」，「部門別番組制作」，「放送ジャーナリズム」，「番組／ニュース原稿執筆」，「放送パフォーマンス」，「スタジオ制作技術」，「送信技術」及び「修理技術」

の全8コースが予定されているが，89年度に，通常予算を流用してのトライアルという形であるが，初めて3コース（「部門別番組制作」，「番組／ニュース原稿執筆」，「スタジオ制作技術」）が実施された。90年度も同様のコースを実施中である（表－3及び表－4のとおり）。

・DIIコース

89年度－3コース

90年度－3コース

（3） DIIIコース

DIIIコースは全11コースを予定している。実施は92年度から予定している。実施計画は表－5のとおり。

4－3 カウンターパートの配置状況と適正度

カウンターパートは5つの技術移転分野のそれぞれにつき2名を指定し，これらを中心に技術移転を行っている。その配置状況は表6のとおりである。

表－6 分野別カウンターパート配置状況　　1990年6月現在

	番組編成	報道	番組制作	制作・運行技術	送信技術
カウンターパート氏名	ダルワント DARWANTO	モーリス・シマトパン MAURICE・SIMATUPAN	バンバン・ウィナルソ BAMBANG・WINARSO	スハルノ SOEHARNO	ジョコ・ユニアント JOKO・YUNIANTO
	ラフマット・ステジョ RACHMAD・SUTEDJO	ブモ・プラヨガ BMO・PRAYOGA	ハルメン・ハーリー HARMEN・HARRY	ジュジュール・スティアワン DJUDJUR・SUTOAWAN	サルピー M. SARPI'IH
人数	2人	2人	2人	2人	2人
担当	上野 重喜	上野 重喜	時松 佑兒	小林 修	下地 昇

これら各分野2名のカウンターパートを中軸として　これ以外の教官に対してはカウンターパートからさらに技術移転が行われ，技術の均霑（きんてん）が図られている。この配置状況は適正なものと判断される。

ちなみに，これまでのカウンターパートおよび教官の配置状況の推移を時系列的に見ると，表－7，表－8のとおりである。なお，この2表を見ると1990年4月からカウンターパートを各分野2名，計10名に減少していることに気づくが，これは従前も事実上2名程度が技術移転の対象だったが，1990年4月から定義を厳密にしたため，各分野2名となったもので，技術移転のあり方が変ったわけではない。

表－1　MMTC・DIコース実施状況表

1990年 6月現在

科目	区分	1985年	1986年	1987年	1988年	訓練生 合格者
		4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3	
1.番組編成企画 (Programmes Compilation Planning)	専門家	84/5/16 白石 克巳		10/15 10/25 長谷川 晃		
	計画	BI BII BIII	DI	DI		
	実施					
2.番組制作 (Programme Lines Production)	専門家	84/7/2 坂本 多		10/15 10/25 鈴木 勇		
	計画	BI BII BIII	DI	DI		
	実施	DI前期 (12/12)	DI (20/18)	DI (20/20)		52/50
3.ニュース報道 (News and Current Affairs Reporting)	専門家	84/7/2 磯部洋一郎	7/1 7/12	福岡 薫		
	計画	BI BII BIII	DI	DI		
	実施	DI前期 (12/ 9)		DI (20/20)		32/29
4.スタジオ及び主調整の運用技術 (Studio and Master Control Technique Operation)	専門家	84/7/2 岡田修一郎 84/7/2 伊藤 晃二 9/12	7/1 9/30 6/18 舘 和夫	加藤 勉 6/17 10/25 岡野 正二		
	計画	BI BII BIII	DI	DI		
	実施	DI前期 (29/27)	DI (20/19)	DI (20/20)		69/66
5.送信技術 (Transmission Operation)	専門家	84/5/16 佐藤 文雄		10/15 10/25 下地 晃		
	計画	BI BII BIII	DI	DI		
	実施	DI前期 (19/16)				19/16
6.調整員 (Coordinator)		84/5/30 柴田 信二	5/29 5/12 浦上 浩三	10/25 池城 直 10/18		172
応募数／訓練生数／合格者数		358/72/64	241/40/37	213/60/60		161

（注）　科目別の「訓練生数／合格者数」は1989年度迄の合計である。　1985年度はMMTCローカルテストのみ実施された。

表－1－2 MMTC・D1コース実施状況表

1990年 6月現在

科目	区分	1988年	1989年	1990年	1991年	訓練生 合格者
		4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3	
1.番組編成企画 (Programmes Compilation Planning)	専門家	長谷川 晃 10/21	11/22 上野 重喜 11/21			
	計画	DI	DI	DI		
	実施		DI (24/24)	DI (24/)		24/24
2.番組制作 (Programme Lines Production)	専門家	鈴木 勇 10/21 10/10	時松 佑史 10/21			
	計画	DI	DI	DI		
	実施	DI (18/18)	DI (24/24) DI·85 (9)	DI (24/)		94/92
3.ニュース報道 (News and Current Affairs Reporting)	専門家	福岡 薫 7/11 長谷川 晃（兼任） 10/21	11/22 上野 重喜（兼任） 11/21			
	計画	DI	DI	DI		
	実施	DI (13/13)	DI (24/24) DI·85 (6)	DI (24/)		74/71
4.スタジオ及び主調整の運用技術 (Studio and Master Control Technique Operation)	専門家	加藤 勉 9/29 10/10 岡野 正二 10/21	小林 修 10/21			
	計画	DI	DI	DI		
	実施	DI (18/18)	DI (24/24) DI·85 (14)	DI (24/)		111/108
5.送信技術 (Transmission Operation)	専門家		下地 昇 10/21			
	計画	DI	DI	DI		
	実施	DI (18/17)	DI (24/24) DI·85 (13)	DI (24/)		61/57
6.調整員 (Coordinator)			池城 直 10/21			364
応募数／訓練生数／合格者数		329/72/71	392/120/120 (+40:DI·85)	432/120/		352

（注） 科目別の「訓練生数／合格者数」は1985年度からの合計である。 1985年度はMMTCローカルテストのみ実施された。

表－2

ＤＩコース実施状況

（単位：人）

回数	期間	コース（分野）名	訓練生数	国試合格者数	応募者数
第１回 ＢⅡ＋ＢⅢ →ＤＩの １学期分	1985. 7.31 ～1986. 2.18	番組制作	12		358
		ﾆｭｰｽ報道	12		
		ｽﾀｼﾞｵ/主調整技術	29		
		送信技術	19		
		合計	72		
第２回	1986. 4.12 ～1987. 3.17	番組制作	20	18	241
		ｽﾀｼﾞｵ/主調整技術	20	18＋ *1	
		合計	40	36＋ *1	
第３回	1987. 4.27 ～1988. 3.26	番組制作	20	19＋ *1	213
		ﾆｭｰｽ報道	20	19＋ *1	
		ｽﾀｼﾞｵ/主調整技術	20	18＋ *2	
		合計	60	56＋ *4	
第４回	1988. 4.16 ～1989. 3.18	番組制作	18	17＋ *1	329
		ﾆｭｰｽ報道	18	16＋ *2	
		ｽﾀｼﾞｵ/主調整技術	18	17＋ *1	
		送信技術	18	16＋ *1	
		合計	72	66＋ *5	
第５回	1989. 4. 4 ～1990.3.16	番組編成企画	24	24	392
		番組制作	24	24	
		ﾆｭｰｽ報道	24	24	
		ｽﾀｼﾞｵ/主調整技術	24	24	
		送信技術	24	24	
		合計	120	120	
第１回 補講分 →ＤＩの ２学期分	1989. 9. 4 ～1990.3.16	番組制作	7	7	48
		ﾆｭｰｽ報道	6	6	
		ｽﾀｼﾞｵ/主調整技術	14	14	
		送信技術	13	13	
		合計	40	40	
第６回	1990. 4.16 ～1991. 3	番組編成企画	24		432
		番組制作	24		
		ﾆｭｰｽ報道	24		
		ｽﾀｼﾞｵ/主調整技術	24		
		送信技術	24		
		合計	120		

＊印は 1990.3 の国家試験（追試）に合格した者を示す

表－3　MMTC訓練コース実施状況表（D II）

科　目	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年
	4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3
1. 放送番組企画 (Program Broadcasting Planning)				12人	12人	12人	
2. 部門別番組制作 (Program Package Production)	12人	12人	12人	12人	12人	12人	
3. 放送ジャーナリズム (Broadcast Journalism)			12人	12人	12人	12人	
4. 番組／ニュース原稿執筆 (Script/Story Writing)	12人	12人			12人	12人	
5. 放送パフォーマンス (Broadcasting Performance)							
6. スタジオ制作技術 (Studio Production Technique)	12人	12人	12人	12人	12人	12人	
7. 送信技術 (Transmission Technique)			12人	12人	12人	12人	
8. 修理技術 (Technical Repair)							
訓練生合計	35人	36人	48人	60人	72人	72人	

表－4

DⅡコース実施状況

（単位：人）

回　　数	期　　間	コース（分野）名	訓練生数	国家試験合格者数	応募者数
第　1　回	1989．4．4 ～1990．3	部門別番組制作	12	12	86
		番組／ﾆｭｰｽ原稿執筆	11	11	
		ｽﾀｼﾞｵ 制作技術	12	12	
		合　　計	35	35	
第　2　回	1990．4.16 ～1991．3	部門別番組制作	12		119
		番組／ﾆｭｰｽ原稿執筆	12		
		ｽﾀｼﾞｵ 制作技術	12		
		合　　計	36		

表－5 MMTC訓練コース実施計画表（D IIIコース）

科目	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年
	8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3
1. 放送管理 (Broadcasting Management)						
2. ニュース、報道番組制作 (News & Information Program Production)					8人	
3. 教育、宗教番組制作 (Education & Religion Program Production)				8人		
4. 文化、娯楽番組制作 (Culture & Entertainment Program Production)			8人		8人	
5. 番組美術デザイン (Technical & Artistic Design for Production)						
6. 台本執筆 (Scenario & Storyboard Writing)			8人	8人	8人	
7. 演説およびドラマ演技 (Public Speech and Drama Acting)						
8. 装置技術 (Apparatus Engineering)			8人	8人	8人	
9. 公開スタジオ、中継番組制作技術 (Open Studio & Mobile Production Enginnering)						
10. 衛星、地上系伝送技術 (Satellite & Terrestrial Transmission Enginnering)						
11. 保守 (Maintenance)						
訓練生合計			24人	24人	32人	

表－7　カウンターパート配置表

1990年6月現在

分野	1985年 人数	1985年 職位	1986年 人数	1986年 職位	1987年 人数	1987年 職位	1988年 人数	1988年 職位	1989年 人数	1989年 職位	1990年3月迄 人数	1990年3月迄 職位	1990年4月より 人数	1990年4月より 職位
番組編成	3人	教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 総務部 1	8人	所長、兼教官 1 総務部長 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 総務部、兼教官 2 総務部 2	8人	所長、兼教官 1 総務部長 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 総務部、兼教官 2 総務部 2	9人	所長、兼教官 1 総務部長 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 総務部、兼教官 3 総務部 2	11人	所長（延べ） 2 総務部長 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 総務部、兼教官 3 総務部 2 教官 1	9人	所長 1 総務部長 1 教務部、兼教官 1 総務部、兼教官 3 総務部 2 教官 1	2人	教務部、兼教官 1 教官 1
報道	2人	総務部、兼教官 1 教官 1	2人	総務部、兼教官 1 教官 1	2人	総務部、兼教官 1 教官 1	2人	総務部、兼教官 1 教官 1	4人	総務部、兼教官 1 教務部、兼教官 2 教官 1	4人	総務部、兼教官 1 教務部、兼教官 2 教官 1	2人	総務部、兼教官 1 教官 1
番組制作	4人	教務部長、兼教官 1 教務部、兼教官 1 教官 2	4人	教務部長、兼教官 1 教務部、兼教官 1 教官 2	6人	教務部長、兼教官 1 教務部、兼教官 2 教官 3	7人	教務部長、兼教官 1 教務部、兼教官 2 教官 4	6人	教務部長、兼教官 1 教務部、兼教官 2 教官 3	5人	教務部、兼教官 2 教官 3	2人	教務部、兼教官 1 教官 1
制作・運行技術	8人	技術部、兼教官 1 教官 7	8人	技術部、兼教官 1 教官 7	8人	技術部、兼教官 1 教官 7	8人	技術部、兼教官 1 教官 7	8人	技術部、兼教官 1 教官 7	8人	技術部、兼教官 1 教官 7	2人	技術部、兼教官 1 教官 1
送信技術	6人	技術部長、兼教官 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 教官 3	6人	技術部長、兼教官 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 教官 3	6人	技術部長、兼教官 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 教官 3	6人	技術部長、兼教官 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 教官 3	6人	技術部長、兼教官 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 教官 3	6人	技術部長、兼教官 1 教務部、兼教官 1 技術部、兼教官 1 教官 3	2人	技術部、兼教官 1 教官 1
合計	23人		28人		30人		32人		35人		32人		10人	

表－8　カウンターパート配置状況　　1990年6月現在

分野	氏名	日本派遣計画、実績	配置年月日	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	備考
所長	Willy A. Karamoy		1986. 2.17								1989.7.29 本省へ異動
	Hoetojo Hoerip		1989. 7.29								〃TVRI研修所から異動
（番組編成）											
	Togar L. Radja	S.60. 2. 7 ～ S.60. 3.30	1986. 5. 1								
	＊ Siswadi		1989. 6.19								前情報省 YOG地方庁長
	＊ Darwanto										番組制作から編成へ
	Rachmad Sutedjo	S.62.11.17 ～ S.62.12.31	5. 1								
	Utujuk Rahardjo		1988. 8. 1								
	Iping Madunpi	S.59. 6.11 ～ S.59. 9.23	1986. 5. 1								1989.9 RRI JKT へ異動
	Tamadjoe	S.63. 5. 4 ～ S.63. 6.17	5. 1								
	Mulatono	H. 1. 1.30 ～ H. 1. 3.14	10. 1								
	Muhammad Rusdi	H. 1. 5.12 ～ H. 1. 7.23	10. 1								
	Elvi Listiorini	S.61. 1.16 ～ S.61. 3.13	1986. 5. 1								
（報道）											
	＊ Maurice Simatupan	S.61. 3.20 ～ S.61. 5.21	1986. 5. 1								
	＊ Bmo Prayoga	S.59. 8. 2 ～ S.59.10.30	5. 1								
	Endang S. Sari		1989. 2. 1								
	Tommy Suprapto		2. 1								
（番組制作）											
	Halim Nasir	S.59. 1.19 ～ S.59. 4.15	1986. 5. 1								1989.12.16 TVRI JKTへ
	Siswantono		1990. 1.26								1990. 1 着任
	Darwanto		1988. 1. 1								1988. 5 着任
	＊ Bamban Winarso	S.60. 8. 1 ～ S.60.11. 3	5. 1								
	＊ Harmen Hary	S.60. 2. 7 ～ S.60. 3.30	1986. 5. 1								
	Kartini	S.63. 1.18 ～ S.63. 3.18	1987.12. 1								
	Sugeng Riyanto		1987. 1. 1								
	Romain Rusdi	S.60. 8. 5 ～ S.60.10. 6	1986.10. 1								1988. 3. 6 死亡
（制作・運行技術）											
	Sunaryo	H. 1. 1.16 ～ H. 1. 4. 4	1986. 5. 1								
	Istyo Hartono	S.59.12.15 ～ S.60. 2.29	1986. 5. 1								
	Lembah Susanto	S.63. 7.17 ～ S.63.10.25	1986. 5. 1								
	Syahrir Kandung	S.60. 7.18 ～ S.60.11. 3	1986. 5. 1								
	＊ Soeharno	S.62. 7.20 ～ S.62.11.14	1986. 5. 1								
	Iriandi	S.60. 7.18 ～ S.60.11. 3									
	＊ Djudjur Sutiawan	H. 1. 1.16 ～ H. 1. 4. 4	1986. 5. 1								
	Bambang Witono		1986.10. 1								
（送信技術）											
	Kosasih	S.59. 1.19 ～ S.59. 4.15	1986. 5. 1								
	Tugiyo	S.59. 1.19 ～ S.59. 4.15	1986. 5. 1								
	Subakat	S.63. 7.17 ～ S.63.10.25	1986. 5. 1								
	Mooryantoro	S.61. 1.18 ～ S.61. 3.31	1986.10. 1								
	＊ Joko Yunianto	S.62. 7.20 ～ S.62.11.14	1986. 5. 1								
	＊ M.Sarpiih	S.62. 7.20 ～ S.62.11.14	1986.10. 1								

注：＊印は1990年6月現在のカウンターパート

4－4　技術移転達成状況

(1)　ＤＩにおける技術移転達成状況

現在，ＤＩコースについては全コースがインドネシア人教官の手によって完全に運営されているが，彼らのＤＩ実施能力はどの程度であろうか。

MMTCの専門家はこの実施能力を評価するのに，技術の習得状況，教科や実技の指導能力，教科書その他教材の作成能力，訓練計画を自ら企画作成する能力，訓練結果を評価する能力，クラスを運営していく能力ならびに機材を管理・操作する能力という要素に分析してとらえると同時に，全体の総合評価も行っている。そのランクはいずれの要素についても上から下にA, B, Cの３ランクで評価している。この評価法は以前より一貫しているので２年前との比較が可能である。

結論から言えば，この２年間においてＤＩにおける技術移転については，大きな進展を見て完了したと総括できよう。より具体的に言えば，総合評価の次元で見て，２年前はＡランクのＤＩ実施能力をもつとされた教官は比率で言って全体の48％で半数に満たず，残りはB, Cランクと評価されている者がそれぞれ26％と約四分の一ずつを占めていた。しかし，現在はＡランクと評価される者が91％に達し，残りの９％がＢランクで，Ｃランクの者は今や存在しない。

このような総括をするもととなるデータは専門家が分野別の各教官の育成状況について評点を行った「カウンターパート育成状況評価表」（表－９－１～９－５）である。これらの表から本調査団が総合評価欄の評点だけを拾い上げ，分野別・評価ランク別にまとめたのが表「ＤＩを標準とした教官育成状況総括表」（表－10）である。

この「総括表」のうち，Ａ表は1988年４月現在のもの，Ｂ表は1990年６月現在のものである。これらの表の合計列を見ると能力ランク別の人数比率がどう変わったか把握できる。すなわち，この２年間にＤＩ実施能力のランク別教官数比は，

A：B：C＝48：26：26→91：９：０

と変化し，ＤＩを目標とした技術移転が著しい成果をあげたことが明白である。

ＤＩ全５コースがインドネシア人教官によって運営されているという事実は，このような技術移転状況から見ても十分に肯首できることである。

ちなみに，このような技術移転を促進したものの一つは，カウンターパートの日本での研修であるが，これに関するデータは４－９日本側投入実績の中で示す。

(2)　ＤII，ＤIII実施準備における技術移転達成状況

知識・技術には境目があるわけではなく，ＤＩの技術移転はおのずとＤII，ＤIIIコースの実施能力を高めるのに役だったと言えよう。しかし，この２年間の延長期間においてＤII，

DIIIを目標とした技術移転は専門家の目標としてＤＩの技術移転と並行して努力がなされた。

その達成状況を把握するために専門家にＤII,ＤIIIコースの実施能力をＤＩと類似の評価表で評点してもらったのが，表－11－１～11－５である。これを，前節と同じように総括表にまとめたのが表－12「ＤII，ＤIIIを標準とした教官育成状況総括表」である。

これらはMMTCインドネシア人教官の現有勢力の中からＤII,ＤIIIの担い手となる25人を抜き出し，これらを評価したものであるが，「総括表」を見るとわかるように，ＤII実施能力においてＡランクと評価される者は52%，Ｂランクは44%，ＤIII実施能力について見るとＡランクに評価される者は８％と１割に満たず，Ｂランクが60%と過半数を占め，Ｃランクは32%もある。ＤIIについては，２年前のＤＩ実施能力の分布がＡランク48%，Ｂ・Ｃランクがそれぞれ26%であったのに比べると，技術移転状況は良いと言えるが，絶対的な水準からいうと今後のさらなる努力が果たされなければならない現状にあると言える。

表－９－１

カウンターパート育成状況評価表（番組編成）　　1990年６月現在

氏名	年令	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力				総合評価
* DARWANTO ﾀﾞﾙﾜﾝﾄ	５６	１９８８．１．１	大学	教官	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
* SUTEJO ｽﾃｼﾞｮ	４７	１９８６．５．１	大学	教務部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
WILLY KARAMOY ｶﾗﾓｲ	５４	１９８６．２．１	大学	前所長	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
HOETOJO HOERIP ｳﾄｮｳ ｳﾘﾌﾟ	５５	１９８９．７．２９	大学	所長	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
TOGAR LUMBAN ﾄｶﾞｰﾙ	５４	１９８６．５．１	大学	総務部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
TAMADJOE ﾀﾏｼﾞｮ	３３	１９８６．５．１	大学	総務部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
MULATONO ﾑﾗﾄﾉ	３８	１９８６．１０．１	高校	総務部	A	B	A	B	A	A	A	A	B				A
ELVIE LISTIORINI ｴﾙﾌｨｰ	２９	１９８６．５．１	大学	総務部秘書	A	A	A	A	A	A	A	A	B				A
SISWADI ｼｽﾜﾃﾞｨ	５６	１９８９．６．１９	短大	教官	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
UTJUK RAHARDJO ｳｼﾞｭｯｸ	３６	１９８８．８．１	大学	総務部	B	A	A	A	A	A	B	A	A				A

評価基準　A：調査時点で修得（技術移転完了）　B：R/D 終了時までに修得可（技術移転完了見込み）　C：R/D 終了時までに修得未完了（引き続き技術移転必要）

＊印の２名は１９９０年４月の見直しにより新たに確定したカウンターパートである。他の８名は従来までのカウンターパートなので参考までに記載した。

表－９－２

カウンターパート育成状況評価表　（報道）　　１９９０年　６月　現在

氏　　名	年令	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力				総合評価
* MAURICE SIMATUPANG モーリス	３６	１９８６．５．１	大学	総務部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
* BMO PRAYOGA プラヨガ	５１	１９８６．５．１	大学	教官	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
ENDANG SARI エンダン サリ	３０	１９８９．２．１	大学	教官	A	A	B	A	A	A	B	A	B				A
TOMMY SUPRAPTO トミー	３６	１９８９．２．１	大学	教官	B	A	B	A	A	B	B	A	B				B

評価基準　Ａ：調査時点で修得（技術移転完了）　Ｂ：R/D 終了時までに修得可（技術移転完了見込み）　Ｃ：R/D 終了時までに修得未完了（引き続き技術移転必要）

＊印の２名は、１９９０年４月の見直しにより新たに確定したカウンターパートである。他の２名は、従来までのカウンターパートなので参考までに記載した。

表－9－3
カウンターパート育成状況評価表（番組制作）

1990年 6月現在

氏名	年令	配置年月	学歴	職位	技術修得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
* バンバン・ウィナルソ BAMBANG WINARSO	37	1986. 5. 1	大学	教務部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
* ハルメン・ハーリー HARMEN HARRY	35	1986. 5. 1	高校	教官	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
ハリム・ナシール HALIM NASIR	54	1984. 7. 2	専門学校	(89' 12転出) 教務部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
ラフマド・ステジョ RACHMAD SUTEJO	45	1986. 5. 1	大学	教務部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
ダルワント DARWANTO	56	1988. 1. 1	大学	教官	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
カルティーニ KARTINI	37	1987. 12. 1	大学	教官	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A

評価基準

A：評価時点で修得　B：R／D終了時までに修得可　C：R／D終了時までに修得未完了

註）＊印上段二人が、90年4月の見直しによる正規のカウンターパート、下段四人は、これまでのカウンターパートであったので参考までに記載する。

表－9－4 カウンターパート育成状況評価表（制作・運行技術）

1990年6月現在

氏名	年令	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力				総合評価
* SOEHARNO	37	1986. 5. 1	普通高校卒	教官	A	A	A	A	B	A	A	A	A				A
* DJUDJUR SETIAWAN	36	1986. 5. 1	工業高校卒	教官	A	A	A	A	B	A	A	A	A				A
SUNARYO	39	1986. 5. 1	3年制大学卒	技術部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
ISTYO HARTONO	41	1986. 5. 1	工業高校・師範学校卒	教官	A	A	A	B	B	A	B	A	A				A
LEHBAH SUSANTO	40	1986. 5. 1	工業高校卒	教官	A	A	A	B	B	A	B	A	A				A
SYAHRIR KANDUNG	37	1986. 5. 1	大学卒	教官	A	A	A	A	A	A	B	A	A				A
IRIANDI	39	1986. 5. 1	工業高校卒	教官(RRI副課長兼)	A	A	A	B	B	A	A	A	B				A
BAMBANG WITOHO	40	1986. 10. 1	工業高校卒	教官（現像専任）	B	B	A	B	B	A	B	B	B				B

・ 評価基準　A：調査時点で修得（技術移転完了）　B：R/D 終了時までに修得可（技術移転完了見込み）　C：R/D 終了時までに修得未完了（引き続き技術移転必要）

・ * 印の2名は1990年 4月の見直しにより決定した正式カウンター・パートである。 他の6名は正式カウンター・パートとして指名されてはいないが、該当分野担当教官であるので参考として育成状況評価を記載した。

表－9－5

カウターパート育成状況評価表　（　送信技術　）　　1990年　6月　現在

氏名	年令	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力				総合評価
＊　ジョコ　ユニアント	31	1986.10.　1	高校卒	教　官	A	A	A	A	A	A	B	A	A				A
＊　サルピー	42	〃	高校卒	教　官	B	B	A	B	C	A	A	B	B				B
コサシ	47	1986.　5.　1	国立教育師範学校電子工学	技術部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A				A
ツギヨ	42	〃	国立教育師範学校電気工学	教務部課長	A	A	A	A	A	A	B	A	A				A
スパカット	44	〃	高校卒	技術部課長	A	A	A	B	A	A	A	A	A				A

評価基準　A：調査時点で修得（技術移転完了）　B：R/D 終了時までに修得可（技術移転完了見込み）　C：R/D 終了時までに修得未完了（引き続き技術移転必要）

＊印の２名は1990年 4月の見直しにより新たに確定したカウンター・パートである。　他の３名は従来までのカウンター・パーアトであったので参考として記載した。

表—10　DIを標準とした教官育成状況　総括表

A. 1988年4月現在（前回評価調査団派遣当時）

評価ランク＼分野	番組編成	送信技術	番組制作	制作・運行技術	報道	合計
A	2（50）	4（80）	5（71）	2（33）		13（48）
B		1（20）		4（17）	2（100）	7（26）
C	2（50）		2（29）	3（50）		7（26）
分野別計	4（100%）	5（100）	7（100）	9（100）	2（100）	27（100）

⇩

B. 1990年6月現在（今回評価調査団派遣時近辺）

評価ランク＼分野	番組編成	送信技術	番組制作	制作・運行技術	報道	合計
A	10（100）	4（80）	6（100）	7（88）	3（75）	30（91）
B		1（20）		1（22）	1（25）	3（9）
C						
分野別計	10（100）	5（100）	6（100）	8（100）	4（100）	33（100）

注1　欄内は教官人数（カッコ内は分野別の縦計を100とする百分比）
注2　Bは表1-9-1～9－5の「総合評価」の評点をピックアップしてまとめた。
　　Aについては、前回の評価調査団の報告書「インドネシア・ラジオ・テレビ放送訓練センターエバリュエーション調査団報告書」（昭和63年5月）p.61～66の類似の表から同様にしてまとめた。

表11－1　DII、DIIIを標準とした教官評価（編成）

インストラクター	コース	教科指導	実技指導	教材作成	総合評価
ダルワント	DII	A	A	A	A
	DIII	B	A	B	B
ステッジョ	DII	A	A	A	A
	DIII	A	B	B	B
シスワディ	DII	A	B	A	A
	DIII	B	C	B	B
ウジュック	DII	B	B	B	B
	DIII	C	C	C	C
カルティニ	DII	B	B	C	B
	DIII	C	C	C	C

評価基準　A：調査時点で十分な能力を有する。
B：能力は有するが更に向上が望まれる。
C：調査時点では能力的には不十分である。

ダルワントはインドネシアの主要局ＴＶＲＩスラバヤ放送局の放送部長も務めプロデューサーとしての経験も豊富な人材。ステジョもジャカルタＴＶＲＩの編成部門で幅広く活躍した識見豊かな実力の持ち主である。この２名については、ＤＩコースの技術移転は完了しているのみならず、ＤII、DIIIコースの実施にあたっても、すでにかなりの力を有している。さらに、シスワディは情報省ジョグジャカルタ特別地区の長官からの転任者であり過去にラジオ局ＲＲＩスラバヤ放送局長の経歴もあり、広い分野に知識経験がある。他に若手のホープ、ウジュックとカルティニがおり前者は教官であると同時に現役のニュースキャスターでもある。後者はラジオ番組ディレクターの出身で放送ジャーナリストとしての資質に恵まれた人材である。ただし両名ともテレビの経験は不十分なので独り立ちの教官としては、なお今後の成熟を待たねばならない。

表11—2　DII、DIIIを標準とした教官評価（報道）

インストラクター	コース	教科指導	実技指導	教材作成	総合評価
シマトパン	DII	A	B	A	A
	DIII	A	C	B	B
プラヨガ	DII	A	B	B	B
	DIII	B	C	C	C
エンダン	DII	B	C	B	B
	DIII	B	C	C	C
スプラプト	DII	B	C	B	B
	DIII	B	C	C	C

評価基準　A：調査時点で十分な能力を有する。
B：能力は有するが更に向上が望まれる。
C：調査時点では能力的には不十分である。

主たる担当教官4名のうち、シマトパンとプラヨガについては技能・知識・教授法全般にわたって水準に達しており、DIコースに関する技術移転は完了している。他の2名エンダンとスプラプトについては、学識も豊かで非常に優れた資質を有しているが、放送現場での経験がやや不足している。両者とも今年度、日本での研修参加により大いに能力の伸張が期待できる。

表11－3　DII、DIIIを標準とした教官評価（番組製作）

インストラクター	コース	教科指導	実技指導	教材作成	総合評価
バンバン・ウィナルソ	DII	A	A	A	A
	DIII	A	B	A	A
ハルメン・ハーリー	DII	B	C	B	B
	DIII	B	C	C	C
ダルワント	DII	A	A	A	A
	DIII	B	A	B	B
カルティーニ	DII	B	B	C	B
	DIII	C	C	C	C

評価基準　A：調査時点で十分な能力を有する。
B：能力は有するが更に向上が望まれる。
C：調査時点では能力的には不十分である。

「番組製作」に関係するカウンターパート並びに教官は、一部「番組編成」部門とオーバーラップするが、以下の四人が中心である。

人数や専門分野ともに、極めて限定されていることが、今後DII・DIIIを遂行する上で残された課題である。

バンバン・ウイナルソは、番組製作に関する知識・実技指導では、DII・DIIIに関しては充分に能力を発揮できる。更に、カリキュラム編成や講師陣の充填などコース遂行のための管理能力も持ち合わせている。従って、MMTCのデイプロマ・コース実施の実質的推進役と成りうる人物である。

ハルメン・ハリーは、目下、番組製作に関する知識・実技指導では、DIについては、ほぼ独立して指導に当たることができようが、DII・DIIIについては彼の得意とする分野（美術デザイナー）以外では今後の研鑽が望まれる。

ダルワントは、放送部長経験という、これまでのキャリアが生かされて、DTはもとより、DII、DIIIについても充分知識や製作指導でも充分に能力を発揮するであろう。番組製作面だけでなく、番組編成や番組管理などの管理的能力も持ち合わせている。

カルテイーニは、潜在能力はあるのだろうが、現在のところDI、とくにラジオについての指導が中心で必ずしもテレビについては充分とは言い難い。従って、DII・DIIIコースについても今後の技術移転が必要である。

表11－4　DII、DIIIを標準とした教官評価（製作・運行技術）

インストラクター	コース	教科指導	実技指導	教材作成	総合評価
スナリオ	DII	A	A	A	A
	DIII	A	B	B	B
スハルノ	DII	A	A	A	A
	DIII	A	B	B	B
ジュジュール	DII	A	A	A	A
	DIII	B	A	B	B
カンドン	DII	A	B	B	B
	DIII	B	B	B	B
イスチオ・ハルトノ	DII	B	B	B	B
	DIII	C	B	C	C
ルンバ・スサント	DII	B	B	B	B
	DIII	C	B	C	C
イリアンディ	DII	B	B	B	B
	DIII	C	B	C	C

評価基準　A：調査時点で十分な能力を有する。
B：能力は有するが更に向上が望まれる。
C：調査時点では能力的には不十分である。

スナリオ、スハルノの２名についてはすでに技能、知識ともに十分な能力を有しており、DII製作技術コースにおいても中心的役割を果たしている。ジュジュールはＶＴＲ技術において第一人者であり、今後ポストプロダクションの比重が増していくうえで役割は更に重要となるが、十分その任に足るであろう。特にスナリオ、ジュジュールは89年度の日本研修が大いに役立っており、保守に対する考え方が大きく進歩した。保守用機器の整備、保守部品の調達、定期保守日の設定など大いに評価したい。カンドンは今やＤＩ、DIIのコース運営の中心的人物であり、生徒の評価方法の開発などにも力を発揮している。今後の訓練コース拡大へ向けて欠くことのできない人物であろう。他の教官については現在のＤＩの教官としては講義、実習ともに十分な能力を有しているが今後DII、DIIIに向けては特に知識面においての充実が望まれる。

表11－5　DII、DIIIを標準とした教官評価（送信技術）

インストラクター	コース	教科指導	実技指導	教材作成	総合評価
コサシ	DII	A	A	A	A
	DIII	A	B	B	B
ツギヨ	DII	A	A	A	A
	DIII	A	B	B	B
スバカット	DII	A	A	B	A
	DIII	B	B	C	B
ジョコ・ユニアント	DII	A	A	B	A
	DIII	B	B	C	B
サルピー	DII	C	B	C	C
	DIII	C	C	C	C

評価基準　A：調査時点で十分な能力を有する。
B：能力は有するが更に向上が望まれる。
C：調査時点では能力的には不十分である。

カウンターパートに対するＤＩの技術移転は完了しているが、更に各人について寸評すると次のとおりである。

コサシ（技術担当副所長）は技能、知識ともに既に十分な水準に達しており、ＤII・DIIIに向けての技術移転の対称としても十分にその受容能力を有しており、今後もＭＭＴＣにおける指導的役割を果たす中心人物としての活躍が期待出来る。

ツギヨ（教務部課長）は途中からカウンターパートとなった者であるが、技術陣でも有能な人物の一人であり、これもＤII・DIIIに向けての技術移転の対称として何ら不安はない。

スバカット（技術部課長）は学歴が普通高校卒ということもあって理論面で若干弱いところもあるが、ＤII・DIIIに向けての技術移転は指導方法により十分可能である。非常に真面目な人物で、保守の問題に最も真剣に取り組んでいる一人であり、今後は此の面での中心人物に育てたい一人でもある。

ジョコ・ユニアント（教官）はカウンターパートの中では最も歳が若いが最も勤勉で知識吸収欲も旺盛である。指導により今後も能力伸張が期待出来るしＤII・DIIIに向けての技術移転も指導方法により十分可能である。

サルピー（教官助手）は主としてラジオ送信機の実習を担当しているが基礎学力が可成不足しており、ＤＩ迄の技術移転が限界と思われる。今後の能力伸張もあまり期待出来ない。

表—12　DII、DIIIを標準とした教官育成状況　総括表

A. DIIを標準とした教官育成状況総括表

分野／評価ランク	番組編成	送信技術	番組制作	制作・運行技術	報道	合計
A	3	4	2	3	1	13 (52)
B	2		2	4	3	11 (44)
C		1				1 (4)
分野別計	5	5	4	7	4	25 (100)

B. DIIIを標準とした教官育成状況総括表

分野／評価ランク	番組編成	送信技術	番組制作	制作・運行技術	報道	合計
A			1	1		2 (8)
B	3	4	1	6	1	15 (60)
C	2	1	2		3	8 (32)
分野別計	5	5	4	7	4	25 (100)

注1．欄内は教官人数（カッコ内は分野別の総計を100とする百分比）
注2．表—11—1～11—5の「総合評価」の評点をピックアップして作成。

4－5　カリキュラム整備状況

(1)　カリキュラム作成状況

ディプロマ　D I，D II，D III 全24コースのカリキュラム作成状況は，現在実施中のD Iの5コースとD IIの3コースに関しては完成しているが，D IIとD IIIの残りの16コースに関しては検討・作成中である。

MMTCでは，下記のようにJICA専門家4人を含む17人のメンバー構成からなるカリキュラム検討委員会を設立しており，1990年9月迄にカリキュラムおよび講座内容（シラバス）を作成決定した後，1991年12月迄詳細な詰めと調整を行なって1992年1月に最終決定を行なうこととなった。

なお，放送技術系のカリキュラムおよびシラバスは，昨年以来，検討されてきたD II，D IIIでのコース設定変更をしたJICA専門家案を，MMTC側がその殆どを採用してドラフトを完成しており，現在，文部省との間でアカデミーでの一般教養科目における指定単位数設定にともなう総合調整を行なっている段階である。

一方，放送番組系のMMTC側カリキュラム案はあるものの各コースでの科目設定方法および現在作成中のシラバスについて，さらに，JICA専門家との間で一層の検討を必要としている。

MMTCカリキュラム検討委員会

議　長	Drs. SISWANTONO
副議長	Drs. M. KOSASIH
秘　書	RACHMAD SUTEJO SH
	Drs. TUGIYO
委　員	Drs. DARWANTO S.
	HARMAN HARY
	MAURICE SIMATUPANG, SH.
	SOEHARNO
	JIKO YUNIANTO
	Drs. BMO PRAYOGA
	SUNARIO, BA.
	Drs. BAMBANG WINARSO
	Ir. Drs. SYAHRIR KANDUNG
委員（JICA）	下　地　　昇
	上　野　重　喜
	時　松　祐　児
	小　林　　修

(2) カリキュラムの基本構成

従来からMMTC側が設定しているコースは，表－13のようにＤＩの5コース，ＤIIの8コース，ＤIIIでの11コースであるが，JICA専門家のコース設定案は表－14および表－15に示したとおりである。

ア．放送番組系のカリキュラム基本構成

表－14に示される放送番組系のコース設定理念は，MMTC側が従来から設定しているＤＩ，ＤII，ＤIIIでのコース数は変わらないが，「編成・放送管理」系統（番組編成・計画管理の初級，中級と放送経営管理コース），「番組制作」系統（番組制作の初級，中級と教育・宗教番組制作および教養・娯楽番組制作コース），「ニュース・報道」系統（ニュース・報道番組の初級，中級，上級コース）の3系統に大きく分けられている。

「放送原稿・台本作成法」，「放送パフォーマンス」および「放送美術デザイン」は，主に「番組制作」系統および「ニュース・報道番組」系統の初級あるいは中級修了者から適性に応じて選択・分岐されるコースであり，この2系統に包括され，かつ従属的ではあるが専門化を必要とするコースとして扱われている。

イ．放送技術系のカリキュラム基本構成

表－15に示される放送技術系のコース設定理念は，MMTC側が従来から設定しているＤＩ，ＤII，ＤIIIでのコース数は変わらないが，ＤIIとＤIIIにおける修理技術，公開スタジオ・中継番組制作技術，装置技術，保守技術，衛星・地上系伝送技術の各コースが下記の3系統の中に包括あるいは分散する形で変更されている。

即ち，制作運用技術の初級，中級コースとスタジオ制作技術（ＤIII）と運行とポストプロダクション技術コース（ＤIII）で，主として番組制作技術およびポストプロダクション技術を一貫して学習する系統，制作運用技術の初級コース修了者から適性に応じて選択・分岐されるスタジオ・主調技術と保守技術の中級と上級コースでより高度なハード技術とその保守技術を学習する系統および送信技術（初級）を修了した後より高度な送信技術とその保守技術を学習する中級と上級コース系統の3系統に大きく分けている。

この理由は，ＤIIでの修理技術とＤIIIでの保守技術の両コースで，放送設備・機器全般にわたって学習するには広範囲であるため，ＤIIとＤIIIのスタジオ・主調技術と保守技術および送信技術と保守技術のそれぞれの中級と上級コースに分散して包括したこと，公開スタジオ・中継番組制作技術は，番組制作技術の一分野であるため，スタジオ制作技術（ＤIII）に包括したこと，衛星・地上系伝送技術は，衛星伝送技術に関しては衛星受信装置として送信技術と保守技術の上級コースの中に，また，地上系伝送技術は番組回線構成方法としてスタジオ・主調技術と保守技術の上級コースの中にそれぞれ包括したことで，3系統の技術コースそれぞれをＤＩ，ＤII，ＤIIIの3年間を通して学習するように体系化したことによる。

(3) カリキュラム内容およびシラバスについて

ア. 放送番組系のカリキュラム内容

JICA 専門家が，3系統コースにおけるそれぞれの教科内容を体系化し，それに伴う講座内容(シラバス)の明確化を図ったものが表－16「編成・放送管理」系統コースの教科内容，表－17「番組制作」系統コースの教科内容，表－18「ニュース・報道番組」系統コースの教科内容に示されており，各系統について説明を加えなくても一目瞭然としている。

放送番組系の JICA 専門家は，この3つの表に示されるカリキュラムの基本概念を以て，MMTCのカウンターパートにカリキュラムの構成方法と改善および各シラバスの専門的内容とテキスト作成の指導に当たっている。

一方，MMTC 側が設定している各コースでのカリキュラム内容と科目単位数を，下記のように6つの表にまとめ，かつ，各コースでの一般科目，基礎知識・技能科目，専門技能科目毎に JICA 専門家の改善点に関する提言を併記している。

表－19　番組編成・経営管理コースのカリキュラム内容
表－20　番組制作コースのカリキュラム内容
表－21　宗教・教育／教養・娯楽番組制作コースのカリキュラム内容
表－22　ニュース・報道番組コースのカリキュラム内容
表－23　放送原稿・台本作成コースのカリキュラム内容
表－24　放送パフォーマンスと放送美術デザインコースのカリキュラム内容

既に実施されているＤＩでの3コースとＤIIでの2コースについては，各科目に対するシラバスは確定しているものと思われるが，未実施の10コースについてはシラバスが明確化されていなく，カリキュラム構成の基本概念を含めて現在カリキュラム検討委員会により検討が進められている。

MMTC 側が設定しているカリキュラム内容を JICA 専門家が各系統別に構成した基本概念と比較してみると，教科内容（＝科目）の体系化が未熟であり，即ち，専門家の定義した1講座内容（シラバス）が科目として設定されているなど，今後，左欄に併記した JICA 専門家の提言を大幅に採用して改善する必要がある。

実習に関しては，各コースとも年間10単位（全年間取得単位の約25%）とそのウエイトは大きく，かつ，実習方法として技術系も組み込んだ表－25に示されるような総合実習方式を編み出しているのが特長であり大きな効果をあげている。ただし，ＤIIIの各コースでの実習単位の他に自由研究やセミナー等の単位を設定して，一層の専門能力を養成することを JICA 専門家は提言している。

イ．放送技術系のカリキュラム内容

放送技術系のＤＩ，ＤII，ＤIIIにおける全コースのカリキュラム内容およびシラバスについては，技術系JICA専門家の作成･指導したものを全面的に採用したドラフトを完成しており，一般教養科目の単位設定にともなう文部省との総合調整を残しているのみである。

この技術系全コースのカリキュラム内容を各科目での講座内容の特長を併記して表－26にまとめてある。科目構成は，一般教養科目（表では省略），基礎科目，放送工学，放送設備，操作実習と演習，他の工学，研究・指導の７つに分けられており，下記の様な目的をもっている。

◎一般教養科目：国家思想，市民精神，インドネシア語，英語等の高等専門学校で履修すべき一般教養科目。

◎基礎科目　：放送技術を理解するための基礎科目で，基礎実験装置を使用して基礎理論の学習を行なう。

◎放送工学　：放送設備・機器の動作原理を学習する。原則として実際の設備は使用せず，実験・実習装置を使用して技術実習を行なう。

◎放送設備　：学習した放送工学の知識を以て放送機器の取り扱いと操作を学習し，機器操作能力を高める。

◎実習・演習　：コースに応じて実習と演習を行なう。即ち，番組制作系コースでは，番組制作実習あるいは運行実習を放送番組系コースとの総合実習形式で行なう。一方，送信・保守技術コース，スタジオ／主調・保守技術では保全実習を主体的に行なう。

◎他の工学　：放送技術に関連する制御工学，金属工学，機械工学，建築工学の学習を行なう。

◎研究・指導　：ＤIIIでの各コースで，関係技術と最新技術に関する英文書のセミナーを行いレポートを作成，課題研究として現存設備および問題点に着服したシステム研究，開発・改善研究などを行なう。

技術系の各コースでのカリキュラム内容は，前述のようにJICA専門家が確立した基本概念に基づいて作成した体系的なカリキュラムとシラバスを全面的に採用しているため，高等放送技術専門学校のカリキュラムとしては理想的なものである。特に，実習設備・機材を豊富に備えて実技習得に重点を置いており，ウ．に述べる放送番組系との総合実習形態を採用しており，また，送信技術コースでは無線工学演習を一貫して行ない，ＤＩで２級無線技術士予備試験，ＤIIで２級無線技術士，ＤIIIで１級無線技術士程度の理論および演習を学習するといった日本の技術資格試験システムのカリキュラム内容を

採用している点が特長である。

ウ．実習の実施状況

総合実習は，講義と合わせて放送の実務について習得する最も重要な科目である。訓練生は，表－25に示されるようにテーマおよび実習設備にあわせてチームに分けて実習を行なっている。

◎ＤＩ ①「番組編成・計画管理」コースと「送信技術」コースは，独自の実習を行なっている。ただし，「番組編成・計画管理」は，後期には一部分が②に述べる番組制作実習に加わる。

②「番組制作」コース，「ニュース・報道番組」コース，「制作運用技術」コースは，合同でラジオ・テレビの番組制作実習を行なう。

◎ＤII ①「放送原稿・台本作成」コースは，独自の実習を行なっている。

②「番組制作」コースと「制作運用技術」は，合同でラジオ・テレビの番組制作実習を行なっている。

（4） カリキュラムの特長と傾向

MMTCが当初インドネシアの放送要員のための訓練研修所として計画されていたものが，開所に当たって突如アカデミー（ディプロマ制，資格認定教育学校）とする大統領令ににより認定され，混乱を招いたことは周知の事実である。今現在，なおカリキュラム内容策定に当たって，当初の「混乱」が尾を引いているように見受けられる。

つまり，考え方に次のような２通りの傾向がある。

ア．教育制度に正規に位置付けられたアカデミーとしては，単に実務的な技術・知識のみならず，広く一般教養と見識を養う，つまり，アカデミニズム色を濃くしたいという考え方。これを敷衍するならば，やがてはTVRI，RRIの職員のみならずよりオープンに訓練生を募集し，放送学，情報学の格式高い専門学校として位置付ける。

イ．もう１つの考え方は，現行のとおり訓練生は，TVRI，RRIの職員が対象であり，あくまでインドネシア国営放送要員の養成を目指し，放送現場の実戦力として役立つ人材を育成することを旨とする。したがって，理論面よりは実務的技能・知識を優先すべきである。つまりは職業訓練学校的色彩の強い考え方である。

以上の２つの考え方が現在も各スタッフの考え方の底流にあり，設立理念から言うならば前者であるが，実際には現在のMMTCスタッフは，情報省，TVRI，RRIの出身者によって占められているため，実行上は後者の考え方がつよく打ち出されている場合が多い。これは，上層部，国家開発委員会（BAPENAS）と情報省（DEPPEN）との間にも，なお意見の統一が見られていないと言われる。

したがって，現行のカリキュラムにはこの両者の考え方が折衷されているが，どちらかというと後者の色彩が強く実務技能・知識に重点を置いている。現在，訓練生が全てTVRI，RRIの職員であることを考えればこの方向はより現実的であるが，なお将来に向けて検討の余地は残っている。

（5） 今後の検討課題

ＤＩにおいては，1989／90年度から全コースが実施されている。教官，カリキュラム，教材等ほぼ完成しており，インドネシア側のスタッフにより自力で運営可能な領域に達している。したがって，ＤＩにおいてはJICA専門家による技術移転は完了したと言える。

ＤIIにおいては，1989／90年度に８コース中３コースをすでに開設している。ＤIIの各コースでは，実地での実習・演習の比率が高くなっており，現場での実戦力，応戦力養成を主眼に置いている。ＤIIの既設コースに関して，インドネシア側スタッフを中心に運営を進めているが，議義内容，教科書作成に当たってはJICA専門家のアドバイスを必要としている。

残りの５コースについては，現在，未実施であり鋭意準備を進めている。その実施に当たっては，放送現場のニーズの実情に即し優先の順位が考えられる。さらに将来の問題として，全コースが果たして毎年必要かどうか，コースによっては隔年，時には３年に１回ということも考えられ，今後の検討課題である。

ＤIIIにおいては，カリキュラムの概案は作成されているが，なお大いに検討の余地があり，目下シラバス等素案を作成中である。1992年４月に現在計画中の追加無償による施設・機器増設工事完成直後から開始を予定しているが，全11コースのうち当初は数コースを実施，暫時追加・拡充が見込まれている。ＤＩ，ＤIIのコースに比べ，さらに実習・演習時間の比率が高く，コースの最終段階として小人数精鋭主義，セミナー形式，大学に例えるならば，最終学年度の卒業論文，卒業実験・制作ともいえる研究学習形式により近くなるものと言えよう。

インドネシアと日本では国情も異なり違うので，日本の事情からのみ即断することは避けなければならないが，これ等11コースについては，放送現場の実態にそうならばかなり重要度に軽重の差が感じられる。したがって，実施に当たっては毎年行なう重点コースと隔年，さらには，３年に１度実施するコース等を計画的に配分することが将来必要となろう。

また，コースの名称，訓練対象者についても検討の余地があり，あくまでこれ等11コースは固定的なものではなく，必要に応じて改廃，新設を考えることを前提とすべきである。放送事業そのものが社会情勢にタイムリーに即応すべき性格のものであるからである。

表－１３ IMPLEMENTATION PLANNING OF D I,II,III

RADIO AND TELEVISION

MULTI MEDIA TRAINING CENTRE

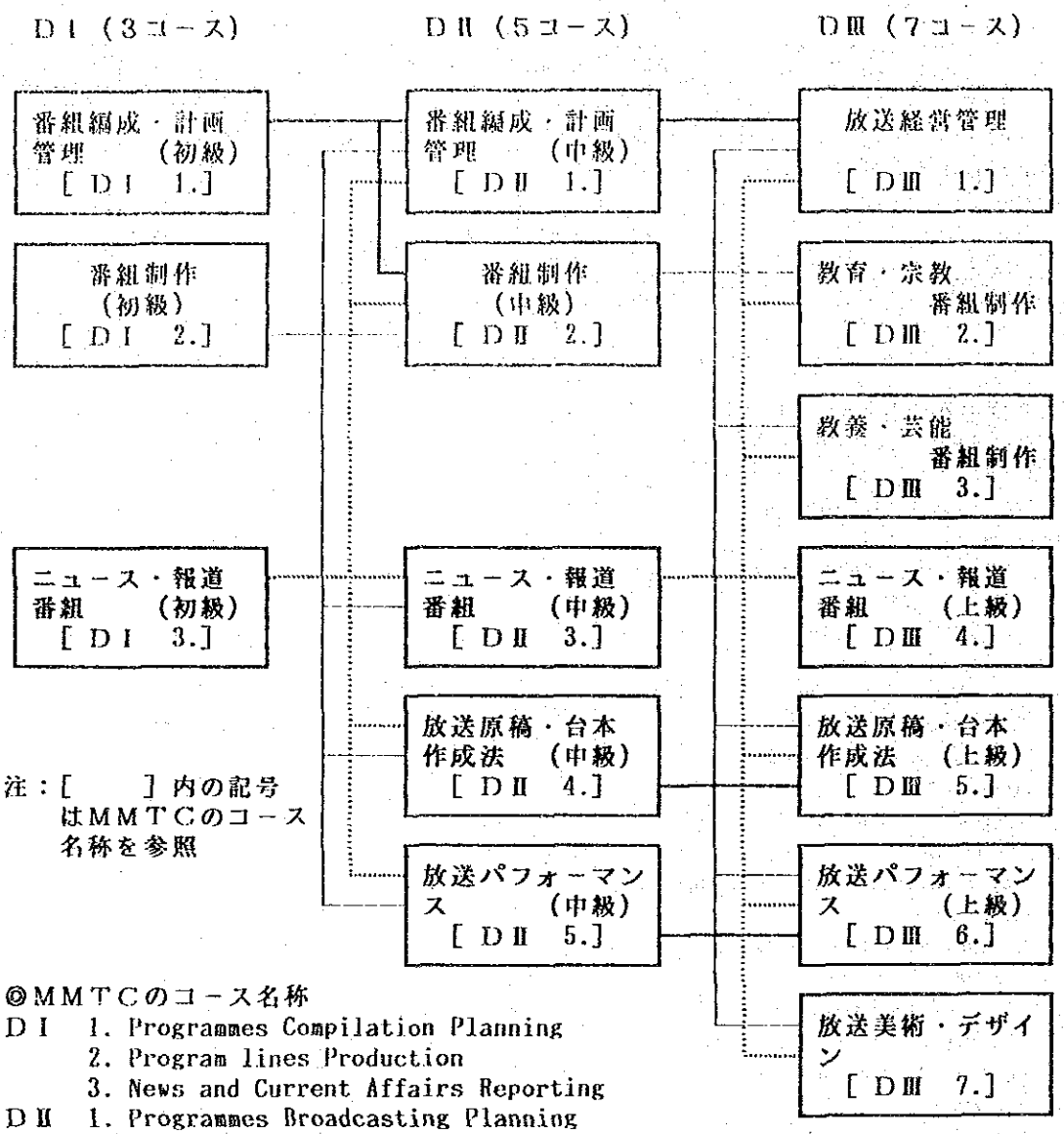
Program Study	1990/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	96/97	97/97	98/99
DI									
1. Programmes Compilation planning	24	24	24	24	24	24	24	24	24
2. Program Lines Production	24	24	24	24	24	24	24	24	24
3. News and Current Affairs Reporting	24	24	24	24	24	24	24	24	24
4. Studio and Master Control Technique Operation	24	24	24	24	24	24	24	24	24
5. Transmission Operation	24	24	24	24	24	24	24	24	24
DII									
1. Programmes Broadcasting Planning	-	-	12	12	12	12	12	12	12
2. Program Package Production	12	12	12	12	12	12	12	12	12
3. Scipt/ Story Writings	12	-	-	12	12	12	12	12	12
4. Broadcasting Performance	-	-	-	-	-	-	12	12	12
5. Broadcast Journalism	-	12	12	12	12	12	12	12	12
6. Studio Production Technique	12	12	12	12	12	12	12	12	12
7. Technical Repair	-	-	-	-	-	12	12	12	12
8. Transmission Technique	-	12	12	12	12	12	12	12	12
DIII									
1. Broadcasting Management	-	-	-	-	-	8	8	8	8
2. Program News and Information Productions	-	-	-	-	8	-	8	8	8
3. Program Education and Religion Productions	-	-	-	8	-	8	-	8	8
4. Program Cultural and Entertainment Productions	-	-	8	-	8	-	8	-	8
5. Technical and Artistic Production Designs	-	-	-	-	-	-	-	-	8
6. Scenario and Storyboard Writings	-	-	8	8	8	8	-	8	8
7. Public Speech and Drama Castings	-	-	-	-	-	-	8	8	8
8. Apparatus Engineering	-	-	8	8	8	8	-	-	8
9. Open Studio and Mobile Production Engineering	-	-	-	-	-	-	-	8	8
10. Satellite and Terrestrial Transmission Engineering	-	-	-	-	-	8	8	-	8
11. Maintenance	-	-	-	-	-	-	-	8	8
Total of classrooms	8	9	13	14	15	17	18	20	24

Yogyakarta, April 1990

Director of Multi Media Training Centr

HOETOJO HOERIP

表－１４ 放送番組系カリキュラムの基本構成



注：［　　］内の記号はＭＭＴＣのコース名称を参照

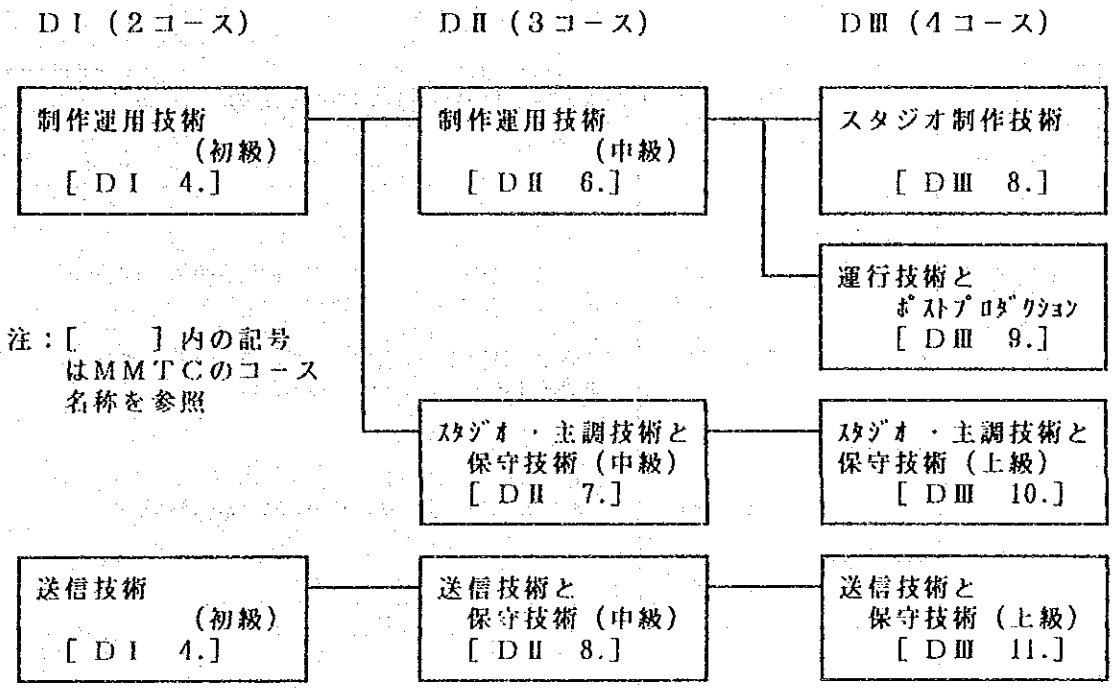
◎ＭＭＴＣのコース名称

ＤⅠ
1. Programmes Compilation Planning
2. Program lines Production
3. News and Current Affairs Reporting

ＤⅡ
1. Programmes Broadcasting Planning
2. Program Package Production
3. Broadcast Journalism
4. Script/Story Writings
5. Broadcasting Performance

ＤⅢ
1. Broadcasting Management
2. Program Education and Religion Productions
3. Program Cultural and Entertainment Productions
4. Program News and Information Productions
5. Scenario and Storyboard Writings
6. Public Speech and Drama Castings
7. Technical and Artistic Production Design

表－１５ 放送技術系カリキュラムの基本構成



◎ＭＭＴＣのコース名称（網かけ部分は新しいコース名称）

ＤＩ　4. Studio and Master Control Technique Operation
→ Production and Operation Technique
5. Transmission Oparation
→ Transmission Technique

ＤⅡ　6. Studio Production Technique
→ Production and Operation Technique
7. Technical Repair
→ Studio/ Master-cotrol and Maintenance Engineering
8. Transmission Tcchnique
→ Transmission and Maintenance Technique

ＤⅢ　8. Open Studio and Mobile Production Engimeering
→ Studio Production Engineering
9. Apparatus Ebgineering
→ Post Production and Master-control Engineering
10. Maintenance
→ Studio/Master-control and Maintenance Engineering
11. Satellite and terrestrial Transmission Engineering
→ Transmission and Maintenance Engineering

表－１６　「編成・放送管理」系統コースの教科内容（専門家提案）

訓練コース	教科内容	講座内容
共通教養教科 （DⅠ） （DⅡ） （DⅢ）	◎教養科目	
	コミュニケーション	・マスコミ発達史　放送史　世界の放送事情　放送制度
	文化人類学	・民族と文化　宗教史　芸能史
	歴史　地理	・アジア・インドネシア史
	社会学　政治経済　科学	・社会学　社会調査　都市・農村社会学　時事問題 世界の中のインドネシア　政治制度
番組編成・計画管理 （DⅠ） （DⅡ）	◎番組総論	
	番組編成管理	・放送概論　番組形態論　企画・演出論
	番組制作	・番組制作入門　制作送出技術入門　放送機器
	◎放送政策	
	放送実施基本方針	・放送法制　放送長期計画
	番組編成基本方針	・放送倫理　年間編成計画
	◎編成業務	
	番組提案統括	・定時番組提案　特集番組提案　提案作法　募集要項
	番組開発	・視聴対象　提案趣旨　試作番組
	番組編成	・番組別編成比率　放送時間帯　形式　タイトル
	計画と実施	・番組予算　番組経理　番組管理
	放送運行要領	・放送運行　送出の仕組みと管理　編成表作成手順
	要員体制と 施設・機材管理運用	・放送要員・機材の配置　スタジオ・設備の管理運用
	送信体制	・送信の仕組み　回線手配
	緊急時対応	・各種警報　災害報道
	◎調査・広報業務	
	視聴者対応	・視聴率調査　世論調査　番組考査
	広報活動	・広報計画　広報予算　経営広報　広報番組　番組広報 キャンペイン　広告メディア　広告効果
	番組有効活用	・番組の提供・交換・販売　国際交流　出版　番組２次利用
放送経営管理 （DⅢ）	◎計画業務	
	長期計画	・放送行政の動向　諮問委員会　視聴者意向
	要員・施設計画	・組織・機構　要員の採用と異動　機材計画
	予算計画	・予算の配分　放送経理　予算の執行と監理
	◎経営企画・経営計画	
	放送法	・公共放送と民間放送　放送機構　放送の未来像
	放送予算	・受信料　受信料制度の確立
	関連法規	・著作権・特許　関連法規　番組審議委員会　業務監査
	関連機関	・放送研究機関　放送訓練機関　要員養成計画

表－１７　「番組制作」系統コースの教科内容（専門家提案）

訓練コース	教科内容	講座内容
共通教養教科（ＤＩ）（ＤＩＩ）（ＤＩＩＩ）	◎教養科目	
	コミュニケーション	・マスメディア入門　世界の放送　世論調査　世論と放送
	文化人類学	・民族と文化　人類と文明　宗教　インドネシア芸能史
	歴史　地理	・世界史　西洋史　東洋史　インドネシア史
	社会学　政治経済　科学	・社会学　社会心理学　政治と社会
番組制作（ＤＩ）（ＤＩＩ）	◎番組企画	
	企画構想	・放送概論　番組形態論　マスコミ入門　文化鑑賞
	番組提案と提案会議	・番組提案の基本　世論の分析　視聴者意向　提案会議
	番組制作管理	・番組制作入門　番組制作の美学　番組の編成と番組管理
	番組予算管理	・予算管理と効率的利用法
	◎放送と番組管理	
	番組企画	・視聴率調査　番組企画委員会　番組検討委員会
	資料収集	・政府と広報　大学と研究機関　図書資料　映像・音楽資料
	資料整備	・著作権と放送　資料分類法　整備・保管システム
	番組評価	・番組批評　番組評価
教育番組制作（ＤＩＩＩ）	◎専門分野・専門知識	
	教育番組	・教育と放送　学校制度　社会教育　青少年幼児教育　婦人教育　スポーツ教育　歴史　地理
教養番組制作（ＤＩＩＩ）	教養番組	・宗教　風俗習慣　絵画　工芸　観光・文化　最新科学技術　異文化交流　写真学入門
	芸能番組	・文芸　映画　音楽　伝統芸能　民族舞踊
	報道番組	・インドネシアの政治　経済　社会　産業
	スポーツ番組	・スポーツ中継
	大型企画番組	・都市開発と農村社会　開発と環境問題　人的資源と人口問題　資源と開発　婦人問題　世界の中のインドネシア
原稿・台本作法（ＤＩＩ）（ＤＩＩＩ）	◎番組制作	
	構成案の作成	・番組とはなにか？　映画と放送　世界の優秀番組　番組における演出と構成
	スケジュール作成	・制作管理スタッフの役割
	出演交渉とロケ取材	・出演者の役割　インタビューの仕方　インドネシア知識人
	スタッフの役割分担	・ＰＤ、ＦＤの役割　ヒューマンレレーション
	放送機材の特性	・ラジオの特性　テレビの特性　光とレンズ　音とマイクロフォン　番組制作美学　照明の基本
	番組素材の収集	・番組素材収集技術
	映像・音声の設計	・映像と音声　映像心理学　映像と言語　映像の組み立て　音響学入門　音響効果　効果音の使い方
	映像・音声補助材料	・視聴覚教材の利用法
	台本作成	・シナリオ入門　名作シナリオ講読　台本作成
	番組素材の編集	・編集理論と実際　モンタージュ理論
	美術の発注・設計	・デザインの入門　色彩の構図　色彩心理学　美術　写真・絵画入門　世界の美術
放送美術・デザイン（ＤＩＩＩ）	スタジオ収録作業	・番組演出入門　演出論　番組制作テクニック
	◎スタジオ・デザイン	
	大道具のレイアウト	・スタジオデザイン　大道具の設計
	小道具の制作・飾り付け	・小道具の役割　小道具作成
放送パーフォマンス（ＤＩＩ）（ＤＩＩＩ）	◎放送パーフマンス	
	発声・話法	・言葉と音声　発声法　音声学
	弁論	弁論術　演説　講演の仕方　アナウンス術　リポート術　司会術
	演技	・演技・演劇入門　音楽概論　音楽例示法　ドラマツルギー
	衣装・化粧	・衣装学入門　服飾デザイン　コスメチック入門　メイキャップ術
	◎実習	・番組制作実習　番組出演実習　総合放送訓練

表－１８　「ニュース・報道」系統コースの教科内容（専門家提案）

訓練コース	教科内容	講座内容
共通教養教科 （ＤＩ） （ＤＩＩ） （ＤＩＩＩ）	◎教養科目 コミュニケーション 文化人類学 歴史　地理 社会学　政治経済　科学	・マスコミ発達史　世界の放送事情　放送の役割 ・民族と文化　大衆文化論　宗教史　インドネシア芸能史 ・世界史　アジア・インドネシア史 ・社会学　社会調査　都市・農村社会学　風土と生活 政治制度　森林資源　石油・エネルギー論　動植物誌
	◎ニュース 種別 （記者資質　能力専門性） 取材 出稿 原稿作法 整理・編集 解説 放送の実施	・部門別　政治　経済　国際　社会　文化　スポーツ 件　別　中央・地方行政　選挙　警察　事件　裁判　災害 ・取材方法論　インタビュー　報道の倫理 地域取材（首都圏　地方都市　外国等） 取材組織（記者クラブ　通信員） ・送稿手段（電話　テレックス　写真伝送　各種輸送 ＥＮＧ　現場中継　衛星中継） ・ニュース原稿論　文章論　構成法　話ことば　書きことば ・情報価値　内容確認　配列基準　最終校正 ・ニュース解説論　解説原稿　解説手法 ・ニュース編成論　緊急・警報放送　緊急時要員・機材体制
ニュース・報道番組 （ＤＩ） （ＤＩＩ） （ＤＩＩＩ）	◎報道番組 企画 番組提案・審議 番組予算	・放送概論　放送形態論　番組構成論　番組編成論 ・提案方法論　世論調査・分析　視聴者の意向　提案方法論 番組審議・提案会議のあり方 ・番組予算のあり方
	◎専門分野・専門知識 国際問題 政治・経済 科学・産業 教育・文化 社会・生活	・世界情勢　各国事情　国際関係論　世界・アジアの動き ・政治制度　国家予算　政策・国策　外交　金融 ・伝統産業　輸出産業　資源論 ・青少年問題　医療保健問題　スポーツ　伝統芸能 ・都市と農村　人口動態と対策　環境保存と対策　災害対策
	◎報道資料 収集資料 整理・保存	・政府広報　新聞・出版　地方素材　大学・研究機関 海外資料　印刷物　統計資料　映像資料　音声資料 ・資料分類法　保管システム　利用システム
原稿・台本作法 （ＤＩＩ） （ＤＩＩＩ）	◎番組制作 制作スケヂュール 取材先交渉 構成案作成 台本作成 機材・スタッフ 素材収集・取材 編集作業 スタジオ作業 放送実施	・各種報道番組制作手法 ビデオ・フイルム構成番組　スタジオ番組　解説番組 ストレートトーク　対談・座談会　ドキュメンタリー 中継番組　スポーツ番組 ・番組制作に必要とする知識 映像学　音響学　映像心理学　写真学　モンタージュ理論 美術　デザイン学　色彩心理学　シナリオ作成　名作鑑賞
放送美術・デザイン （ＤＩＩＩ）	放送・番組管理 ◎スタジオ・デザイン	・視聴率調査　視聴者対応　素材の管理・保存 ・構図論
放送パーフォマンス （ＤＩＩ） （ＤＩＩＩ）	◎放送パーフマンス 出演 発声・話法 演技 衣装・化粧	・放送出演者論　アナウンサー　リポーター ・発声法　音声学　講演・弁論学 ・演劇　ドラマツルギー ・衣装　振り付け　美粧
	◎実習	・番組制作実習　演出・出演演習　放送総合訓練

表－１９'

番組編成・経営管理コースのカリキュラム内容

番組編成計画 ➡ 番組放送計画 ➡ 放送経営管理

注：・Ｓ１、Ｓ２は１学期と２学期
・Ⅰ２、Ⅱ２、Ⅲ２のローマ数字はグレード、アラビア数字は単位数

科　目	ＤⅠ Ｓ１	ＤⅠ Ｓ２	ＤⅡ Ｓ１	ＤⅡ Ｓ２	ＤⅢ Ｓ１	ＤⅢ Ｓ２
◎一般科目						
宗教	2					
国家思想	2					
市民精神			2			
調査方法	2					
世論調査				2		
インドネシア語	Ⅰ2		Ⅱ2		Ⅲ2	
英語	Ⅰ2	Ⅱ2	Ⅲ2	Ⅳ2	Ⅴ2	Ⅵ2
◎基礎知識・技能						
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 科学	2					
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 心理学			2			
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 企画戦略				2		2
発展ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ						
文化観賞	2					
文化人類学			2			
番組制作	2					
番組構成	2					
番組と放送の管理	Ⅰ3			Ⅱ2	Ⅲ2	
広報と宣伝の役割				2		
メディア選択と ﾒｯｾｰｼﾞ遂行の戦略					2	
組織と運営					2	
◎専門技能						
視聴調査	2					
放送著作権利	3					
経営管理	2					
台本執筆	Ⅰ3					
番組編成	3					
番組の評価				Ⅰ2		Ⅱ3
制作機材配備技法			2			
要員計画				Ⅰ2		Ⅱ2
効果的要員配置				Ⅰ2	Ⅱ2	
予算計画				Ⅰ2		Ⅱ3
実習	Ⅰ2	Ⅱ6	Ⅲ6	Ⅳ4	Ⅴ4	Ⅵ6
単位合計	44		20	20	18	18

JICA専門家提言

❶ＤⅠおよびＤⅡでは放送の編成管理に当たる者として広い視野と高い見識を陶冶するための教養科目の追加充実が望ましい。
❷ＤⅢでは管理者として身につけて置くべき当会教養、特に国際化社会にふさわしい知識教養の習得

❶ＤⅠでは、放送の歴史、番組提案・計画入門、放送技術と設備、番組制作手順と技術操作等の導入改善。
❷ＤⅡでは、編成管理担当者としての基本的必修知識を身につけるために、さらなる充実が必要。
❸ＤⅢでは、放送の運営管理についての知識を一層強化すること。

❶ＤⅠでは、視聴率と意見に関する調査広報とキャンペーンの導入を提案
❷ＤⅡでは、番組の評価・考課、番組制作現場の業務内容について、制作・技術両面の知識が不可欠であり、同時に視聴者対応も重要な要素である。
❸ＤⅢでは、管理職として必要な実務史知識（番組評価、番組制作管理、業務計画、人事管理等）を習得

「備考」

●番組編成計画コース（ＤⅠ）は、１９８９／９０年度から実施。
●放送番組計画コース（ＤⅡ）は、１９９２／９３年度から実施する計画。
●放送管理計画コース（ＤⅢ）は、１９９５／９６年度から実施する計画。

「テキスト・教材作成状況」

●番組編成計画コースのⅠ2、Ⅱ2等の網かけされた科目のテキスト・教材は完成しており、１４科目のテキストと２冊の市販教材が用意されている。
●放送番組計画および放送管理計画コースの講座内容は、現在検討中である。

表－２０ 番組制作コース カリキュラム内容	番組制作（初級）↓		番組制作（中級）↓		注：・Ｓ１、Ｓ２は１学期と２学期 ・Ⅰ２、Ⅱ２、Ⅲ２のローマ数字はグレード、アラビア数字は単位数
	ＤⅠ		ＤⅡ		
科　　目	Ｓ１	Ｓ２	Ｓ１	Ｓ２	ＪＩＣＡ専門家提案
◎一般科目					
宗教	2				●ＤⅠでは、放送人としての一般教養をより広く習得するような配慮が欲しい。
国家イデオロギー	2				
市民精神				2	
調査方法論		2			●ＤⅡでは、さらに将来の展望の中で、より深い教養を身につけ、国際的にも視野を広げた知識や素養を培って欲しい。
世論調査			Ⅱ2		
インドネシア語	Ⅰ2		Ⅱ2		
英語	Ⅰ2	Ⅱ2	Ⅲ2	Ⅳ2	
◎基礎知識・技能					
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科学	2			Ⅱ2	●ＤⅠでは、番組制作に携わる者の一般知識と基本的な技術について、理論的な構築が必要である。
放送番組導入	2				
放送・番組管理	2				
番組制作管理	2		Ⅱ2		●ＤⅡでは、かなり実践を積んだ番組制作者として、制作に関する高度の知識や技能を習得させたい。
番組形態論				Ⅱ2	
アニメーション				2	
ショー番組演出				2	
◎専門技能					
番組制作	Ⅰ3	Ⅱ2		Ⅲ3	●ＤⅠでは、できるだけ幅広く番組制作できる素質を涵養するための専門的技能を会得して欲しい。
番組制作の美学	Ⅰ2	Ⅱ3		Ⅲ3	
台本執筆	3				
番組演出				2	●ＤⅡでは、番組制作に関するより高度の制作技術を体得するとともに、将来より広い制作技術に対応できる知識を学んで欲しい。
ドラマツルギー			2		
映像・音声技法			2		
実習	Ⅰ6	Ⅱ4	Ⅲ6	Ⅳ4	
単位合計	４４		１８	２２	

「備考」

●番組制作（初級）コースは、１９８５／８６年度より実施。
●番組制作（中級）コースは、１９８９／９０年度より実施。

「テキスト・教材作成状況」

●番組制作コースは、初級、中級とも既に実施されており、Ⅰ2、Ⅱ2の網かけされた全科目に対して２３冊のテキストと４巻のＶＴＲ教材が用意されている。

表－２１ 宗教・教育／　教養・娯楽番組制作コース カリキュラム内容	宗教・教育番組制作（上級）↓		教養・娯楽番組制作（上級）↓		注：・Ｓ１、Ｓ２は１学期と２学期 ・Ｉ２、Ⅱ２、Ⅲ２のローマ数字はグレード、アラビア数字は単位数
	ＤⅢ		ＤⅢ		
	Ｓ１	Ｓ２	Ｓ１	Ｓ２	ＪＩＣＡ専門家提案
◎一般科目					
比較宗教学	2				●宗教・教育番組制作コースでは、各専門分野に関する深い知識と平行して、さらに知識人としての教養を深めておきたい。 ●教養・娯楽番組制作コースでは、より広い教養を深めるとともに、プロとしての専門知識を習得して番組内容を高めて欲しい。
国家思想	2				
市民精神				2	
調査方法			2		
インドネシア語	Ⅲ２		Ⅲ２		
英語	Ⅴ２	Ⅵ２	Ⅴ２	Ⅵ２	
◎基礎知識・技能					
社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		2			●宗教・教育番組制作コースでは、各専門分野に関する知識を深めるとともに、さらに放送人としての幅広い教養を培いたい。 ●教養・娯楽番組制作コースでは、より広い教養を深める一方、プロとしての専門分野の技術を学んで番組内容を高めて欲しい。
文化人類学		2			
文化鑑賞				2	
異文化交流				2	
教育心理学	2				
番組形態論				2	
Ｒ－ＴＶ教育番組		2			
ショー番組演出				2	
番組開発			2		
◎専門技能					
番組制作					●宗教・教育番組制作コースでは、各専門分野の深い知識や専門技能を身につけながらデスクワーク等の管理能力も磨きたい。 ●教養・娯楽番組制作コースでは、より広い教養とプロとしての専門技能を習得して、管理能力をも身につけて欲しい。
番組美学		Ⅳ２		Ⅳ２	
台本執筆	Ⅱ２		Ⅱ２		
異文化間交流	2				
伝統芸能と音楽			2		
音楽表現法		2			
アニメーション	Ⅱ２		Ⅱ２		
演技・振り付け			2		
番組演出	Ⅲ２			Ⅲ２	
実習	Ⅴ４	Ⅵ６	Ⅴ４	Ⅵ６	
単位合計	２０	１６	１８	１８	

「備考」
●宗教・教育番組制作コースは、１９９３／９４年度から実施する計画。
●教養・娯楽番組制作コースは、１９９２／９３年度から実施する計画。

「テキスト・教材作成状況」
●両コースともカリキュラムおよび講座内容を検討中であり、テキスト・教材の作成には至っていない。

表－２２
ニュース・報道番組のコースのカリキュラム内容

注：・Ｓ１、Ｓ２は１学期と２学期
・Ⅰ２、Ⅱ２、Ⅲ２のローマ数字はグレード、アラビア数字は単位数

	ニュース報道番組（初級）↓		ニュース報道番組（中級）↓		ニュース報道番組（上級）↓		
	ＤⅠ		ＤⅡ		ＤⅢ		
科　　目	Ｓ１	Ｓ２	Ｓ１	Ｓ２	Ｓ１	Ｓ２	ＪＩＣＡ専門家提案
◎一般科目							●ＤⅠおよびＤⅡでは、報道ジャーナリストとしての事物に対する深い洞察力と的確な判断力を養う基礎となる広い常識・教養を涵養する。 ●ＤⅢでは、報道ジャーナリストとして必要な国際感覚を磨き、広い視野からニュースの本質を見極める識見と教養を身につける。
宗教	2						
国家思想	2						
市民精神				2			
調査方法論	2						
世論調査			Ⅱ2				
インドネシア語	Ⅰ2		Ⅱ2		Ⅲ2		
英語	Ⅰ2	Ⅱ2	Ⅲ2	Ⅳ2	Ⅴ2	Ⅵ2	
◎基礎知識・技能							●ＤⅠでは、NEWS 番組計画は素材の収集と送出、　番組制作ではNEWS論評、緊急 NEWS を追加 ●ＤⅡでは、ＤⅠでの学習内容に加え、報道マンとしての高度な業務知識を学ぶとともに経営管理面の運営能力も習得すること。 ●ＤⅢでは、放送と報道に関して、現場の熟達者として知っておくべき高度な知識・理論、法制等の科目を設定。
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科学	2				2		
政治的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ						2	
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ法と倫理					3		
開発ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ				2			
文化人類学				Ⅰ2			
ニュース形態学	2						
ニュース番組計画	2						
ニュース番組管理	Ⅰ2		Ⅱ2				
ニュース番組制作	Ⅰ2						
世論分析と広報						2	
◎専門技能							●ＤⅠでは、ニュース原稿執筆で、インタビュー、座談会、討論、ﾄﾞｷｭﾒﾝﾀﾘｰの追加。編集技法で、音声・映像資料のデザインと資料収集・解析を追加。 ●ＤⅡでは、ＤⅠでの学習内容に加え、さらに深く、細かく専門知識の導入。 ●ＤⅢでは、ＤⅠとＤⅡの教科内容をさらに深めた専門教科の充実と実習・自由研究のウエイトを高めること。
ｼﾞｬｰﾅﾘｽﾞﾑ倫理規定	2						
Ｒ－ＴＶｼﾞｬｰﾅﾘｽﾞﾑ	Ⅰ2		Ⅱ3		Ⅲ3		
ニュース原稿執筆	3						
ニュース編集技法	Ⅰ2		Ⅱ2		Ⅲ2		
ニュース番組制作				Ⅱ2			
番組制作美学	Ⅰ2						
提供・報告技法	Ⅰ3			Ⅱ3	Ⅲ2		
ﾆｭｰｽ公告と時事問題				Ⅰ2		Ⅱ2	
番組制作開発						2	
実習	Ⅰ6	Ⅱ4	Ⅲ6	Ⅳ4	Ⅴ4	Ⅵ6	
単位合計	44		19	21	20	16	

「備考」

●ニュース・報道番組（初級）コースは、１９８５／８６年度より実施。
●ニュース・報道番組（中級）コースは、１９９１／９２年度より実施する計画
●ニュース・報道番組（上級）コースは、１９９４／９５年度より実施する計画

「テキスト・教材作成状況」

●ニュース・報道番組（初級）コースでは、Ⅰ２、Ⅱ２等の網かけされた科目のテキストは、ほぼ完成されており、７科目のテキストと８冊の市販教科書が用意されている。
●ニュース・報道番組（中級）コースは、１９９１／９２年度より実施する計画で、カリキュラム講座内容は、現在検討中であるがテキストを作成準備中。
●ニュース・報道番組（上級）コースは、カリキュラムおよび講座内容とも検討中。

表－２３ 放送原稿・台本作成のコースのカリキュラム内容	放送原稿・台本作成（中級）↓		放送原稿・台本作成（上級）↓		注：・Ｓ１、Ｓ２は１学期と２学期 ・Ⅰ２、Ⅱ２等のローマ数字はグレード、アラビア数字は単位数
	ＤⅡ		ＤⅢ		
科　目	Ｓ１	Ｓ２	Ｓ１	Ｓ２	ＪＩＣＡ専門家提言
◎一般科目					
市民精神		2			●ＤⅡでは、放送原稿作成に必要な言語・文章作法上の基礎知識および一般教養科目を充実する。 ●ＤⅢでは、高度な文章・文体論ならびにジャーナリストとしての見識を高める教養科目を充実する。
調査方法	Ⅱ2				
インドネシア語	Ⅰ2		Ⅱ2		
英語	Ⅲ2	Ⅳ2	Ⅴ2	Ⅵ2	
◎基礎知識・技能					
社会的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		2			●ＤⅡでは、放送および番組制作全般にわたる知識を深めるとともに、番組種別毎の原稿作法の基礎となる教科を増やす。 ●ＤⅢでは、ニュース・ドラマ・ドキュメンタリー等より専門的な分野に分け原稿作成能力を高めるよう考慮する。
文学				Ⅱ2	
文化人類学			2		
番組素材収集技術		2			
番組形態論	Ⅱ2				
放送番組管理		Ⅱ2			
文章作成法			2		
映画撮影法				2	
◎専門技能					
番組制作の美学		Ⅱ3			●ＤⅡでは、実際に各種番組および台本を鑑賞・味読するとともに、基本的な原稿を実作して番組制作に必要な作文能力を高める。 ●ＤⅢでは、各自の専門分野をある程度明確にし、より専門的な実作能力を高める。
文学		Ⅰ2			
台本執筆	Ⅱ2	Ⅲ3	Ⅳ3		
台本分析				2	
性格描写				2	
アニメーション			Ⅱ3		
番組制作	2				
演技			Ⅲ2		
実習	Ⅲ6	Ⅳ4	Ⅴ4	Ⅵ6	
単位合計	１８	２２	２０	１６	

「備考」
●放送原稿・台本作成（中級）コースは、１９９１／９２年度から実施される。
●放送原稿・台本作成（上級）コースは、１９９２／９３年度から実施する計画。

「テキスト作成状況」
●Ⅰ2、Ⅱ2等の網かけの科目のテキストおよび教材は、現在作成準備中で１９９１年年３月にコースが開始される迄に用意される予定。
１９９０年７月時点では、市販教材として下記の２冊を用意している。
"JARNARIST MADE SIMPLE"　"TECHNIQUE CLEARLY WRIGHTING"

表－２４ 放送パーフォマンスと放送美術デザインコースのカリキュラム内容	放送パフォーマンス（中級）↓		放送パフォーマンス（上級）↓		放送美術デザイン↓		注：・Ｓ１、Ｓ２は１学期と２学期 ・Ⅰ２、Ⅱ２等のローマ数字はグレード、アラビア数字は単位数
	ＤⅡ		ＤⅢ		ＤⅢ		
科　　目	Ｓ１	Ｓ２	Ｓ１	Ｓ２	Ｓ１	Ｓ２	ＪＩＣＡ専門家提言
◎一般科目							●放送パーフォマンス・放送美術デザインではより広い教養を深めるとともにプロとしての専門知識を習得して番組内容を高めて欲しい。
市民精神		２					
インドネシア語	Ⅰ２		Ⅱ２				
英語	Ⅲ２	Ⅳ２	Ⅴ２	Ⅵ２	Ⅴ２	Ⅵ２	
◎基礎知識・技能							●放送パーフォマンス（中、上級）では、表現者としての幅広い教養と専門的な技能が会得されるような教科を設定したい。 ●放送美術デザインでは、専門に関する知識を幅広く習得するとともに、美学的なセンスを磨いて欲しい。
社会的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		２					
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ心理学			３				
開発ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	－	－	－	－	２		
ドラマ社会学			２				
文化人類学				２			
文化鑑賞	－	－	－	－		２	
色彩人類学	－	－	－	－		２	
話術			Ⅱ２				
番組形態論		Ⅱ２					
放送番組管理		Ⅱ２					
番組制作の美学	Ⅱ３						
テレビデザイン	－	－	－	－	２		
◎専門技能							●放送パーフォマンス（中、上級）では、プロの表現者としての幅広い教養と技能を深めるような実技を設定する一方で、指導者としの能力も涵養して欲しい。 ●放送美術デザインでは、専門致死や技能を深めるとともに、美学的なセンスをも磨き、指導能力も培って欲しい。
話術	Ⅰ２						
修辞論		Ⅰ２	Ⅱ３				
放送用語		２					
演説		２					
演技	Ⅰ３		Ⅱ２			２	
演出				Ⅲ２			
伝統的古典演劇	２						
ドラマ批評				２			
性格分析				２			
番組制作	－	－	－	－	Ⅳ２	Ⅳ２	
アニメーション	－	－	－	－	２		
特殊効果	－	－	－	－	２		
番組制作の美学	－	－	－	－	Ⅴ３	Ⅵ３	
実習	Ⅲ６	Ⅳ４	Ⅴ４	Ⅵ６	Ⅴ４	Ⅵ６	
単位合計	２０	２０	１９	１７	１５	２１	

「備考」

●放送パーフォマンス（中級）コースは、１９９０／９１年度より実施している。
●放送パーフォマンス（上級）コースは、１９９６／９７年度より実施する計画。
●放送美術デザインのコースは、１９９８／９９年度より実施する計画。

「テキスト作成状況」

●放送パーフォマンス（中級）コースで、Ⅰ２、Ⅱ２等の網かけされた科目のテキストおよび教材は用意されている。

表－２５　実習の実施状況（1989／90年度）

Course	Semister Ⅰ (DⅠ)、Ⅲ (DⅡ)	Semister Ⅱ (DⅠ)、Ⅳ (DⅡ)
DⅠ PENSUMA (編成)	• 24名全員(週1日金曜日) • MMTCでのR・TV設備の紹介、RRI及びTVRIまでの放送概念実習 〔場所：教室、スタジオ、PRI＆TVRI〕	• 3班　：(更に2分したサブグループ) (週3日、月・火・水曜日) • 外部：RRI及びTVRIでの実習、POS＆GIRO、統計局でのデータ調査、視聴者意向調査 • MMC: PRORODSIおよびREBRIESTグループに加わり制作実習 〔場所：PRI＆TVRI、外部役所、教室、スタジオ〕
DⅠ PROPRODSI (制作) DⅠ REBRISAT (報道) DⅠ TOPDALSI (制・技)	• 最初の5週間(週1日、木曜日) ・各コースを3班に分ける。 ・R・TV音声、照明TVスタジオ・カメラ、VTR等9項目を一巡して機器の紹介を受ける(操作はしない) • 次の9週間 ・全体と4班のグループに分ける。TV^1, TV^2, R^1, R^2 ・準備から評価まで、2~4週間をかけて簡単な番組制作実習を行う。(期間中、R・TVそれぞれ各3本、R・TV合計12本の番組制作) ・番組制作グループと報道グループは別の番組を制作し、技術はその各々に加わる。 ・各グループとも準備段階は個別に行い、制作段階では技術が加わり、リハーサル、収録を行う。制作した番組評価も合同で行う。 〔場所：教室、スタジオ、野外〕	• 週3日間　月、火、水曜日 • REBRISATは4班、PROPRODSIは4班に分ける。(89年は6班とした) • 3週間単位で、準備、リハーサル、収録、ポストプロダクション・評価を行う。 • 制作番組は各グループ共に各種5本のやや複雑な番組。 • 使用機材は　TV：Studio, OBVan, ENG(複数) R　：ATR(複数) • TOPDALSI(技術)は収録、ポストプロダクション段階で加わる。 〔場所：教室、スタジオ、野外〕
DⅠ PORTRANSI (送信)	• 週1日　木曜日 • 4人、6グループに分ける。 • スタジオ機器の紹介、ハンダ付、電子部品、電圧・電流計、オシロスコープの取扱、測定等の基礎技術実習 〔場所：スタジオ、基礎電気実習室〕	• 週3日間　月、火、水曜日 • TV送信機、R送信機、電子工学実験の3班に分け、1週間3日間の間にローテーションを行う。 • R・TV送信機　：機器取扱、各種測定法、野外測定 電子工学実験：回路実験、増巾器、トランジスター整理回路の組立実験、野外測定 〔場所：スタジオ、基礎電気実習室〕
DⅡ PENASTA (スクリプト執筆)	• 週3日　月、火、水曜日 • Information, Culture等6種類番組についてR・TVのスクリプト執筆を行う。 • 9週間を単位として、 第1の3週：Preparation & Hunting 第2の3週：Theme, Synopsis 第3の3週：スクリプト執筆を行う • 次のSemister に継続して3本のスクリプト作成する。 現段階では他の番組制作等のグループとの関連はない。 〔場所：教室、MMTC外〕	• 週2日間　木、金曜日 • Semister Ⅲの継続 〔場所：教室、MMTC外〕
DⅡ PROPAKSI (制作) DⅡ TEKSTOSI (制技)	• 週3日　月、火、水曜日 • News, Education, Culture等6種類のR・TV各番組に分かれ、1~3週間を単位として、準備、リハーサル、収録、ポストプロダクション、評価を行う。 • Semister Ⅲ期間中、R・TV各6本の番組制作実習を行う。 〔場所：教室、スタジオ、野外〕	• 週2日間　木、金曜日 • Semister Ⅲの継続 • Semister Ⅲ、Ⅳを通じて、R・TVともに11本程度の番組実習を行う。 〔場所：教室、スタジオ、野外〕

表－２６

技術系全コースのカリキュラム内容

制作運用技術（初級）→ 制作運用技術（中級）→ スタジオ制作技術（ポストプロダクション）
運行技術（中級）→ 運行技術（上級）
スタジオ・主調保守技術（中級）→ スタジオ・主調保守技術（上級）
送信技術（初級）→ 送信・保守技術（中級）→ 送信・保守技術（上級）

注：・Ｓ１、Ｓ２は１学期と２学期（教科目は省略）
・Ⅰ２、Ⅱ２、Ⅲ２のローマ数字はグレード、アラビア数字は単位数を表す
・Ⅰ２、Ⅱ２の網かけは、現在、実施されているコースでテキスト完成されており、Ⅰ２、Ⅱ２の下線は、1991/92年度に実施されるためテキスト作成中。

科目	DⅠ S1	DⅠ S2	DⅡ S1	DⅡ S2	DⅢ S1	DⅢ S2	DⅢ S1	DⅢ S2	DⅡ S1	DⅡ S2	DⅢ S1	DⅢ S2	DⅠ S1	DⅠ S2	DⅡ S1	DⅡ S2	DⅢ S1	DⅢ S2	各科目での課座内容の特長
◎基礎科目																			●各種基礎科目での学習内容は、高等専門学校の電気・電子科での学習内容にほぼ準じており、ＤⅠ、ＤⅡ、ＤⅢの各コースでの放送専門技術を理解するために必要な基礎的一般知識を回路実習機材を使って学習。
数学	Ⅰ2	Ⅰ2	Ⅱ2	Ⅱ2					Ⅰ2	Ⅰ2	Ⅲ2	Ⅲ2	Ⅰ2	Ⅰ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅲ2	Ⅲ2	
電気理論	Ⅰ1												Ⅰ1				Ⅲ2		
測定法		2												2					
電気工学				2						2				2					
電子工学	Ⅰ1		Ⅱ2	Ⅲ2			Ⅲ2		Ⅱ2	Ⅲ2		Ⅳ2	Ⅰ1		Ⅱ2				
ディジタル技術	Ⅰ1		Ⅱ2						Ⅱ2		Ⅲ2		Ⅰ1		Ⅱ2				
回路網理論	－	－	－	－			－	－	－	－	2						2		
信号理論	－	－	－	－			－	－	－	－	A2	B2						B2	
高周波回路	－	－	－	－			－	－	－	－	－	－			2				
光学			1						1				－	－	－	－	－	－	●音声工学のⅠでは音声信号の性質と特性・規格等、Ⅱでは音電変換、磁気録音理論、音響理論・建築・音響等。
音響学				1					－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●映像工学Ⅰではテレビの原理・方式と映像・同期信号の規格等、Ⅱでは撮像管・素子の原理・特性、ＶＴＲの理論、フィルム技術等を学習する。
力学	－	－	－	－			－	－	－	－	－	－			1				
応用力学	－	－	－	－			－	－	－	－	－	－				1			
◎放送工学																			●伝送工学では各種伝送路および伝送信号と伝送特性等。
音声工学		1	Ⅱ2						Ⅱ2										●送信技術コースでの無線工学および演習では、Ⅰは２級無線技術士予備試験、Ⅱは２級無線技術士、Ⅲは１級無線技術士程度の理論および演習を学習する。
映像工学	Ⅰ2	Ⅰ1	Ⅱ3		Ⅲ2		Ⅲ2		Ⅱ3				2						
伝送工学	－	－	－	－	－	－	－	－	1					－	－	－	－	－	
無線工学	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	Ⅲ3	Ⅲ3	Ⅱ3	Ⅱ3	Ⅲ2		
無線工学演習	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	Ⅲ2	Ⅲ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅲ2	Ⅲ2	
◎放送設備																			●各設備のⅠでは主要設備の概要と運用上での基礎的知識および基本的操作方法、Ⅱでは諸設備の回路理論と機能・特性および保守方法等を学習。
音声設備	Ⅰ3			Ⅱ2						Ⅱ2			－	－	－	－	－	－	●スタジオ制作技術（DⅢ）での局外中継設備では局外中継システムと中継の実技およびＥＮＧシステムの運用を学習。
映像設備	Ⅰ3	Ⅰ3		Ⅱ4						Ⅱ4			－	－	－	－	－	－	●運行技術（DⅢ）でのポスプロ設備では、ＤＶＥ、ＥＮＧ編集システムについて学習。
局外中継設備					4	2	－	－	－	－			－	－	－	－	－	－	●受信設備では受信用アンテナ、民生用受信機、放送波中継用受信機および有線テレビについて学習。
運行一般設備設備			Ⅰ2				Ⅱ2		Ⅰ2	Ⅱ2			－	－	－	－	－	－	
ポストプロダクション設備	－	－	－	－	－	－	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
送信設備	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	Ⅰ2	Ⅰ2	Ⅱ3	Ⅱ4			
受信設備	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				1			
電力設備	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		Ⅱ2		Ⅱ2			
◎技術実習・演習																			●制作実習は、Ⅰ（情報番組）、Ⅱ（音楽・ドラマ番組）Ⅲ（中継・ロケ番組）、運行実習は、Ⅰ（映・音・同期信号測定等）、Ⅱ（編集方法）、Ⅲ（ポスプロ実習）
制作実習	Ⅰ2	Ⅰ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅲ4	Ⅲ4							－	－	－	－	－	－	●制作演習は大規模中継、国際中継、災害放送の実例を、運行演習は放送網・中継回線構成、施設障害時の実例を想定されたパネル上での演習
運行実習	Ⅰ1	Ⅰ2	Ⅱ2	Ⅱ2			Ⅲ4	Ⅲ4					－	－	－	－	－	－	●送信システムでのⅠは送信システム概論、放送所設備、運用保全業務をⅡでは放送波伝搬、電界強度測定、回路設計
番組概論			Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅱ2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	●保全実習は、Ⅰ（ハンダ付け、板金加工等の基本的実習）Ⅱ（調整・修繕設作）、Ⅲ（実用機器の保守・改修設計）
制作演習					2		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
運行演習	－	－	－	－	－	－	2		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
送信システム	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		Ⅰ1		Ⅱ1			
保全実習			Ⅲ2	Ⅲ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅲ4	Ⅱ4	Ⅲ2	Ⅲ2	Ⅰ2	Ⅰ2	Ⅱ2	Ⅱ2	Ⅲ2	Ⅲ2	
◎他の工学																			●制御工学の１１は制御理論の基礎、Ⅱ１が応用理論、Ⅲ２はパーソナルコンピュータのプログラミングとデータロギングを学習する。
制御工学			Ⅰ1	Ⅲ1	Ⅲ2		Ⅲ2		Ⅲ1	Ⅲ1	Ⅲ2				Ⅲ1	Ⅲ1	Ⅲ2		●金属、機械、建築工学は放送局と送信所における発電機設備や建物および構造物の設計・保守に必要な知識。
金属工学	－	－	－	－	－	－	－	－		1						1			
機械工学	－	－	－	－	－	－	－	－	1		1							1	
建築工学	－	－	－	－	－	－	－	－	1		1							1	
◎研究・指導																			●セミナーのⅠA2、ⅠB2は関係技術およびⅡA2、ⅡB2は最新技術に関し英文専門書によるセミナーとレポート作成。
セミナー					ⅠA2	ⅡA4	ⅠA2	ⅡA4			ⅠA2	ⅡA4					ⅠB2	ⅡB4	●課題研究は、システム研究（各分野の全施設に関する設備計画、保全計画等）、開発研究、改善研究（現存設備および問題点に着眼）のテーマ選び研究・レポート作成する。
課題研究						4		4				4						4	
実習指導						2		2				2						2	●実習指導は、下級生の実習と演習を助手として指導する。
単位合計	16	18	20	20	18	18	18	18	20	20	18	18	16	18	20	20	18	18	

4－6　教科書・教材の整備状況

(1)　教科書と教材の作成状況

1990年6月現在での「番組編成・計画管理」コース，「番組制作」コース，「報道」コース，「制作運用技術」コース，「送信技術」コースそれぞれの教科書および教材の作成状況を表－27－1から27－6に示す。DⅠについては既に完了済であり，現在，DⅡ，DⅢに関する教科書が逐次作成されつつある。コース全体の中での作成状況は，前掲の表－19～表24に網かけして示したとおりである。

各コースでの一般教養科目および技術系の基礎科目，放送工学の各科目については，市販あるいはインドネシア国内での他の専門学校で使用しているものを，MMTC教官自身が取捨選択して応用できるので容易である。

JICA専門家が，教科書作成に関与しているものは放送に関する専門技術の分野であり，そのノウハウを指導しながら(2)で述べるように様々な方法で作成している。

(2)　教科書の入手・作成方法

教科書の入手・作成方法として，JICA専門家は下記の5つの方法が挙げられている。

① MMTC教官自身が作成するもの

教官が諸文献，自らの経験と研究実績から自力で作成するもので，この場合，教官がパンフレットにして訓練生に配布するものがあるが，白板やOHPによる議義で訓練生にノートを取らせる場合も多い。

② JICA専門家の作成によるもの

JICA専門家は必要に応じあるいは教科の内容をみて，自らの経験からあるいはNHKや日本語の資料を参照して教科書を英文で作成することがしばしばある。これを教官が補助教科書として議義に組み入れている。訓練生のほぼ半数は英語が十分に理解できないため，インドネシア語に教官が翻訳することも多い。

③ MMTC教官とJICA専門家が合同で作成するもの

日本の放送事情は，インドネシアのそれと異なるため，必ずしも日本のものがそのままMMTCの訓練用として適するとは限らない。したがってテーマにより教官を主体にJICA専門家がアドバイスしながら教科書を作成する。

④ 海外の著名な放送関係文献を教科書とするもの

英国のBBC，西独のドイチェベレ，米国等の放送に関する書籍を教材にする場合もある。この場合，書籍を入手し訓練生に配布することは困難なので，実際は教官が要点を取捨選択し議義をする場合が多い。

⑤ 特に技術系コースでは，設備・機器メーカー外国輸出する製品の英文の取り扱い説明

書，あるいは，製品引渡し時の試験方法説明書等は有用である。

（3） 視聴覚教材の入手・作成方法

視聴覚教材の入手・作成方法として，JICA 専門家は下記の5つの方法を挙げている。

① 教官，スタッフ，JICA 専門家と共同で制作するもの
番組制作の方法，撮影手法等について，スタジオ，ロケーション等を独自に行い作成するもの

② JICA 専門家が独自に制作したもの

③ NHK，インドネシア国内の TVRI，RRI の番組を教材として使用するもの
NHK の番組等に関しては，短期専門家が持参したものを保存しているのが主体である。

④ 訓練生の作品を教材とする場合
過去の訓練生の制作作品にはかなりの秀作も残っており，作品の具体例として教材になり得る。

⑤ 市販のマニュアル教材や番組教材等
放送機器の生産会社がマニュアルとして売り出しているもので，特に技術関係に優れたものもある。また，番組教材としては NHK インターナショナル等で販売している学校放送番組，教育・教養番組等のビデオカセットが有用である。

（4） 教科書・教材整備に関しての今後の課題

率直に言って個々の教官の専門能力の範囲は限られており，その点は JICA 専門家についても同様である。教材に関してはどのような教材が必要であるかという提案・指示は出来るが，それ等の教材を全て自力で作成することは不可能である。例えば番組制作の経験豊富なベテランでもスタジオ番組からドキュメンタリー，ドラマ，音楽番組，中継番組の全てにわたって詳しいわけではなく，ましてや，美術デザイン，メーキャップまでの教科書を1人で作成することは出来ない。また，英文で書く場合，能率も大幅に減じる。したがって，JICA 専門家は次の様な提案をしている。

① JICA と NHK（関連団体も含む）がタイアップして，放送関連の基本テキストを英文版で作成できないか？　この場合，テーマ，項目毎に NHK（民放でも可）の分野のエキスパートが分担する。

② 同様の方法で，ビデオ教材が作成できないか？　現実問題としてインドネシアで制作する場合，機材・施設の不備に加えカメラマンの能力も劣るので，長期に使う教材として絶えられない。撮影のみならず後処理も効率が悪く非能率的にしてかつ出来栄えが悪い。日本の優れたスタッフが優れた機材を使って効率的に仕上げたスタンダード版がぜひ望

まれる。

③ こうした優れた教材を作成し世界各地の放送現場（例えば，JICA 専門家の派遣先）に配布すれば，JICA および NHK の声価を高めることになり，日本の国際協力の大きな PR ともなり得る。

表－２７－１　教科書・教材作成状況

（編成）　　１９９０．６月現在

教科書・教材名	頁数	科　目	C/Pの作成関与の有無
教科書			
COMPILING OF NHK'S BROADCASTING PROGRAMS	12	番組編成	有り
ESTABLISHMENT AND MANAGEMENT OF BROADCASTING STATION	12	放送管理	有り
RADIO IN THE TV AGE	9	番組編成	有り
THE BROADCAST LAW (JAPAN)	54	放送管理	有り
THE PRESERVATION OF VISUAL MATERIAL IN ARCHIVE	43	放送資料	有り
HOW TO PRODUCE MINI PROGRAMS	14	広　報	有り
MEMO ON PROGRAMMING WORK	13	番組編成	有り
INTRODUCTION TO METHODOLOGY RESEARCH	46	放送調査	有り
FORMATOLOGY OF TV PROGRAMS	102	番組編成・制作	有り
SCIENCE COMMUNICATION	5	情報科学	有り
THE ERA OF TELEVISION AFTER THE WORLD WAR II	51	放送史	有り
INTRODUCTION TO RESEACH METHOD	126	放送調査	有り
THE LIBRARY WORKS	88	放送資料	有り
GUIDE BOOK FOR RECORD FILING	33	放送資料	有り
INTRODUCTION TO PUBLIC OPINION SURVEY	10	世論調査	有り
市販教材			
TV AND RADIO　Chestor,Garrison and Willis		メディア論	無し
Radio Programme Production		メディア論	無し

表－２７－２　教科書・教材作成状況
（報道）　　１９９０．６月現在

教科書・教材名	頁数	科　目	C／P関与の有無
教科書			
THE NEWS COVERAGE AND NEWS EDITING	30	報　道	有り
TELEVISION NEWS PRODUCTION IN ENG ERA	50	報　道	有り
ENG:THE IDEAL EQUIPMENT FOR TV NEWS COVERAGE	100	報　道	有り
INSTRUCTIONAL MANUAL (NEWS REPORTING COURCE)	48	報　道	有り
RADIO-TV JOURNALIST	50	報　道	有り
INTERVIEW AND NEWS REPORTING	30	報　道	有り
MEMO ON GATHERING NEWS MATERIALS	15	報　道	有り
市販教材			
UNDERSTANDING NEWS　J.Hartley		報　道	無し
GETTING INTO BROADCAST JOURNALISM　G.Jackson		報　道	無し
TELEVISION NEWS　ANATOMY AND PROCESS　M.Green		報　道	無し
JOURNALIST MADE SIMPLE　D.Wainwright		放送　原稿	無し
TECHNIQUE CLEARLY WRIGHTING　D.Chaney		放送　原稿	無し
HOW TO CONDUCT SOCIAL SCIENCE RESEARCH　Mercado C.M.		社会　調査	無し
BASIC RESEARCH METHOD IN SOCIAL SCIENCE　Simon J.L.		社会　調査	無し
MASS COMMUNTICATION　Charles Wright		情報　科学	無し
THE BROADCAST PRIMER　DEUCHE WELLE		報道　番組	無し
THE WORK OF THE TELEVISION JOURNALIST　ROBERT TYRELL		報道　番組	無し

表－27－3 教科書・教材作成状況
（番組制作）　　1990．6月現在

NO. 1

年度	教科書・教材名	頁／時間	科目	作成関与のC／P
	教科書			
1987	A VIEW ON A NEW SUBJECT		番組制作	
1988	放送調査 1	(9)	放送調査	
	放送調査 2	(23)	放送調査	
	放送調査 3	(17)	放送調査	
	放送調査 4	(82)	放送調査	
	放送調査 5	(51)	放送調査	
1988	INTRODUCTION OF PROGRAM PRODUCTION	(26)	番組制作	
1988	INTRODUCTION OF PROGRAM PRODUCTION [CONTE]	(14)	番組制作	
1989	PROCEDURE OF TV PROGRAM PRODUCTION	(8)	番組制作	ｶﾙﾒﾝ･ｶﾘｰ
1989	PROCEDURE OF TV PROGRAM PRODUCTION [IND Ver*]	(6)	番組制作	ｳﾁｺﾌｸ
1989	PLANNING AND CONSTRUCTION OF TV PROGRAM	(12)	番組制作	
1989	INTRODUCTION FOR AGRICULTURE PROGRAM IN INDONESIA	(60)	番組制作	
	HOW TO MAKE A SCRIPT FOR AGRICULTURE PROGRAM	(50)	原稿執筆	
	PERENCANAAN DAN PENYUSUNAN ACARA TELEVISI	(12)	番組制作	ﾀﾞﾙﾜﾝﾄ
	VTR教材			
1989	PROCEDURE OF TV PROGRAM PRODUCTION [ENGLISH Ver]	(30')	番組制作	ｳﾁｺﾌｸ
1989	PROSEDUR PRODUKSI ACARA TV [INDONESIA Ver]	(30')	番組制作	ｶﾙﾒﾝ･ｶﾘｰ
1989	HOW TO SHOOT OUT DOOR	(編集中)	番組制作	ﾀﾞﾙﾜﾝﾄ
1989	HOW TO EDIT	(編集中)	番組制作	ｶﾙﾒﾝ･ｶﾘｰ
1990	SUB TEACHING MATERIAL FOR THE METHOD OF SCRIPT WRITING	(45')	原稿執筆	

表－27－4 教 科 書・教 材 作 成 状 況
（番 組 制 作）

1990．6月現在

NO．2

年度	教科書・教材名	頁／時間	科 目	作成関与のC／P
	教科書			
	Introduction to Television Program Production	(127)	番組制作	ﾀﾞﾙﾜﾝﾄ
	Operetta ; A Palace for A King	(7)	番組制作	ｳｨﾀﾞﾘｷﾝ
	Padagogic ; Spiritual Science	(12)	番組制作	ﾀﾞｷｰﾙ
	Qualitative Education Research Method	(25)	番組制作	ﾃﾞｨﾔﾂ ﾃｲ
	Scenario Analysis ; On the Instructors' Needs at KKTC	(33)	番組制作	ｶﾗﾓｲ
	The Arts of Public Speech	(7)	放送演技	ｶﾗﾓｲ
	The Pattern of Production and Broadcasting of TV Program	(8)	番組制作	ｶﾗﾓｲ
	Effective Programming in Educational Program	(10)	番組制作	ｶﾗﾓｲ
	The Technique fo Utilization on Multi Media for Religious Communication in the frame of National Development	(11)	番組制作	ｶﾗﾓｲ
	Formatology of TV Program	(102)	番組制作	ｶﾗﾓｲ
	Radio Television Corporation	(24)	番組制作	ｼﾀﾞﾙﾄ
	The Enhancement and Development of Media Radio	(46)	番組制作	ｼﾀﾞﾙﾄ
	An Introduction to the Program Slide Presentation	(35)	番組制作	ｳｨﾅﾙｿ
	Video Program Script Writing	(51)	番組制作	ｳｨﾅﾙｿ
	The Era of Television After the World War 2 and an Comprehensive Observation TV Media as Mass Communication	(51)	番組制作	ﾅｼｰﾙ
	Television Description Systems	(26)	番組制作	ﾅｼｰﾙ
	The Development Satellite Technology	(19)	番組制作	ﾅｼｰﾙ
	The Artistics Design	(25)	番組制作	ﾊｰﾘｰ
	Radio and Television as a mean of Education Media	(167)	番組制作	ﾀﾞﾙﾜﾝﾄ
	Broadcast Management	(120)	番組制作	ﾀﾞﾙﾜﾝﾄ
	Introduction to Management of R-TV Production	(105)	番組制作	ﾀﾏｼﾞｮ

表－27－5　教科書・教材作成状況

（制作・運行技術）　　1990年6月現在

教科書・教材名	(頁数)	科目	C/P の作成関与の有無
A. JICA専門家の作成関与した教科書等			
1. Video Mixer & Special Effect	(53)	制作技術	スナリオ
2. Synchronizing Pulse	(33)	制作技術	有り
3. Editing	(16)	運行技術	有り
4. Teknik Perekaman Video	(12)	運行技術	有り
5. Color TV Camera and Video Mixer	(43)	制作技術	有り
6. Glossary of Broadcast	(331)	技術全般	有り
7. How to ADJUST "NC-37" Color Camera	(11)	制作技術	無し
8. The Fundamental Thery of CCD	(14)	制作技術	無し
B. 教材ビデオ番組			
1. BVU-800 Periodic Haintenance		運行技術	有り
2. Hari Belajar Mengoperasikan BVU-800P		運行技術	有り
3. Light and Shadow (スタジオ照明技術)		制作技術	有り
C. カウンターパートの作成による教科書等			作成担当
1. The Character of Lens	(150)	制作技術	スナリオ
2. The Technique of Camera Equipments	(150)	制作技術	スナリオ
3. The Technique of VTR Equipments	(150)	運行技術	スナリオ
4. The Technique of Vision Mixer Equipments	(220)	制作技術	スナリオ
5. The Video Technique Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ	(220)	制作技術	スナリオ
6. The TV Color Technique	(220)	制作技術	スナリオ
7. Camera Operation and Its Application	(15)	制作技術	モリアントロ
8. Power Supply System	(35)	技術全般	モリアントロ
9. Lighting	(70)	制作技術	イスチオ
10. Video Technic 1, 2, 3	(120)	制作技術	スハルノ
11. Colorimetry	(60)	制作技術	スハルノ
12. Basic Television		制作技術	スハルノ
13. Video Editing	(39)	運行技術	ジュジュール
14. Video Tape Recorder	(42)	運行技術	ジュジュール

表－27－6　　教科書・教材作成状況（送信技術）

1990年 6月　現在

年度	教科書・教材名（頁数）	科目	C/Pの作成関与の有無／状況
	数学（130）		有
	真空管（125）		〃
	半導体（66）		〃
	電波伝搬（140）		〃
	電気理論（100）		〃
	マイクロウェーブ（50）		〃
	TV送信機の測定（106）		無
	ENGINEERING LECTUR NOTE(111)		〃
	高周波回路（90）		〃
	伝送理論（119）		〃

注）C/Pの作成関与とは教材、教科書の内容に直接係わる部分で、タイプ、翻訳等は含まない